

# 西善福錄遺跡

西善中内産業用地造成に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

2021.8

前橋市教育委員会







# 西善福錄遺跡

西善中内産業用地造成に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

2021.8

前橋市教育委員会



## はじめに

前橋市は、関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる群馬県の県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、2万年前から人々が生活を始め、市内のいたる所にその息吹を感じられる遺跡や史跡、多くの歴史遺産が存在します。

古代において前橋台地には、広大に分布する穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ、王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上毛野国の中心地として栄えました。また、統く律令時代になってからは総社・元総社地区に山王庵寺、国府、國分僧寺、國分尼寺など上野国の中核をなす施設が次々に造されました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎧をけずった地として知られ、近世においては、諸代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられ、「関東の華」とも呼ばれた肥橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地となり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する西善福録遺跡は、本市南部の西善町にあります。今回の調査は、西善内中産業用地造成事業に伴い実施されました。調査の結果、天仁元年（1108年）の浅間山噴火に伴う降下物に覆われた平安時代の水田跡が検出されました。残念ながら、現状のままでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、関係機関や各方面の多大なるご配慮・ご尽力により調査事業を円滑に進められることができました。また、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

令和3年8月

前橋市教育委員会

教育長　吉川　真由美

## 例　　言

- 1 本書は西善中内産業用地造成に伴う「西善福録遺跡」の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査および整理事業の体制は下記のとおりである。

遺跡名	西善福録遺跡
遺跡所在地	群馬県前橋市西善町 779-1、779-2、780、946-1、946-3、946-4、946-5、947-1、947-2
監理指導	寺内勝彦（前橋市教育委員会）
調査担当	茂木佑輔（技研コンサル株式会社）
発掘調査期間	令和3年4月30日～6月7日
整理作業期間	令和3年6月8日～8月31日
調査面積	3,300 m <sup>2</sup>
- 3 発掘調査参加者及び整理作業参加者は次のとおりである。

岡野　茂 佐野良平 中村岳彦 松村春樹 丸山和浩（技研コンサル株式会社）  
青木美好 秋山　修 畑見恒夫 新井　實 安藤三枝子 伊丹茂一 稲敷美枝子 宇賀神光  
宇賀美代子 大塚とし子 大山四郎 岡　眞 萩原一行 加藤知恵子 金子昇生 鶴田榮作  
川野京子 菊田武明 木暮朱実 木暮　昇 北爪二郎 桑原　清 小池初美 小林克宏  
後藤次雄 指田来実 佐藤秀幸 佐藤文江 澤崎春希 設樂和男 杉田安廣 杉田友香  
諏訪典子 高津邦道 高橋　徹 田代京子 田代光男 立川千栄子 田所順子 土屋和美  
富澤　博 中澤和子 永井憲一 長野利章 羽鳥　智 平澤小夜子 星野正也 細野竹美  
松下　明 武藤竹雄 村田稔男 山口直子 山田　進
- 4 本書の編集は茂木が行い、原稿執筆はIを寺内が、他を茂木が行なった。
- 5 下記の機関にご指導・ご協力を賜りました。記して謝意を表します。

山下工業株式会社

## 凡　　例

- 1 挿図中に使用した北は座標北である。
- 2 揿図に国土地理院発行1/200,000『宇都宮』『長野』、1/25,000『前橋』、前橋市発行1/2,500都市計画図を使用した。
- 3 遺構名称は溝：W、土坑：Dである。
- 4 遺構・遺物実測図の縮尺は原則的に次のとおりである。その他各図スケールを参照されたい。

溝・土坑・その他・・・1/60 全体図・・・1/200
- 5 本文および表中の計測値については（ ）は残存値を表す。
- 6 遺構図のトーン表現は以下の通りである。

掘削面下：[■] 降下火山灰一次堆積層：[■] 水田畦畔：[■]
- 7 主な火山灰降下物等の略称と年代は次の通りである。

As-B（浅間B軽石：1108年）、Hr-FA（榛名ニッ岳洪川テフラ：5世紀末～6世紀初頭）、  
As-C（浅間C軽石：3世紀後葉～4世紀初頭）

# 目 次

はじめに

例言・凡例

I 調査に至る経緯	1
II 遺跡の位置と環境	1
III 調査の方針と経過	5
IV 基本層序	6
V 検出された遺構と遺物	
(1) 調査の概要	9
(2) As-B下水田面	9
(3) 溝	10
(4) 土坑	16
VI 発掘調査の成果と課題	22

## 挿図目次

Fig.1 道路位置図	8
Fig.2 前橋の地形	18
Fig.3 周辺の遺跡	19
Fig.4 調査区位置図	20
Fig.5 基本層序	21
Fig.6 北側調査区全体図	21
Fig.7 南側調査区全体図	23
Fig.8 調査区トレーン位置図	8
Fig.9 畦畔断面・水口断面 1~40	18
Fig.10 溝断面41~64 (W-1~14号溝)	19
Fig.11 溝断面65~92 (W-15~24、30、34号溝)	20
Fig.12 溝断面93~106 (W-25~39号溝)、土坑、トレーン断面A	21
Fig.13 本道路周辺の条里型地割	23

## 表目次

Tab.1 周辺道路一覧	3
Tab.2 As-B下水田計測表	17

## 写真図版目次

PL.1 調査区全景（上が北）	
PL.2 調査区遠景（右奥に権現山、左奥に浅間山 南東から）	
PL.3 南側調査区As-B下水田全景（北西から） 畦畔断面6~6'（南から） 畦畔断面7~7'（東から） 畦畔断面17~17'（東から） 畦畔断面21~21'（東から）	
PL.4 畦畔断面23~23'（南から） 水田面18全景（南から） 水口断面35~35' 全景（東から） 水口断面40~40' 全景（東から） W-20a・b号溝全景（南東から）	
PL.5 W-1号溝全景（東から） W-2号溝全景（北から） W-3号溝全景（東から） W-5号溝全景（東から） W-6~8号溝全景（北から） W-12~13号溝全景（北から） W-15号溝全景（東から） W-16号溝全景（東から）	
PL.6 W-18号溝全景（東から） W-19号溝全景（東から） W-20a号溝断面85~85'（東から） W-20a・b号溝断面86~86'（北東から） W-20a号溝断面89~89'（南から） W-35号溝全景（東から） D-7号土坑全景（西から） D-11号土坑全景（東から）	

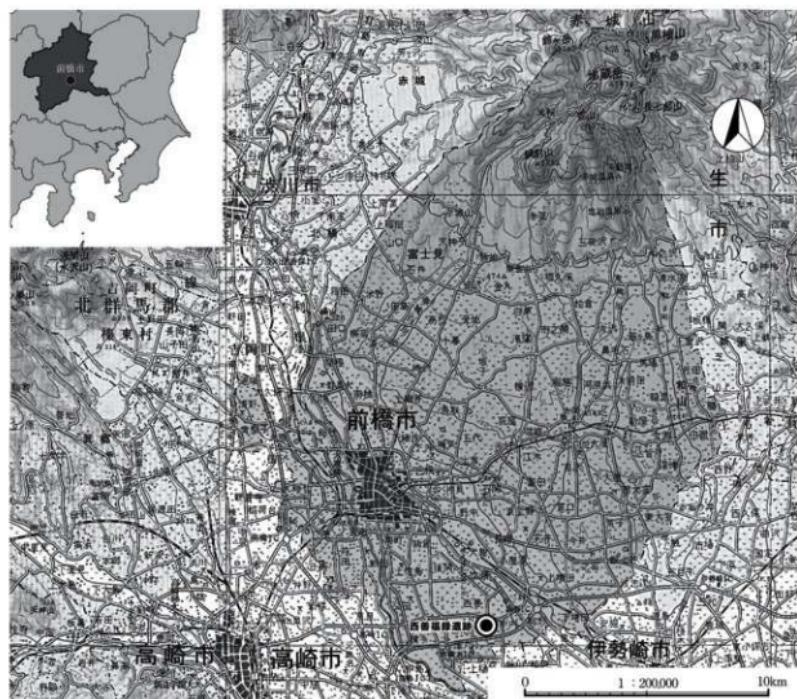


Fig. 1 遺跡位置図



Fig. 2 前橋の地形

## I 調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋市長　山本　龍（産業政策課）（以下「前橋市」という）が施工する西善中内産業用地造成事業に伴い実施されたものである。

当該工事予定地の一部が周知の埋蔵文化財包蔵地（前橋市 0402 遺跡）内であることから、試掘確認調査（以下「試掘調査」という。）を令和 2 年 12 月 8 日～12 月 23 日に実施した。試掘調査の結果、平安時代の水田畦畔等が検出されたため、埋蔵文化財の取扱いについて前橋市と協議した。工事計画から遺構の現状保存が困難な箇所について、記録保存を目的とした発掘調査を実施することで、前橋市と合意した。

令和 3 年 4 月 2 日付けで前橋市より、埋蔵文化財発掘調査・整理業務に係る依頼が、前橋市教育委員会（以下「市教委」という。）に提出された。市教委では既に他の発掘調査予定があるため、市教委直営による発掘調査実施は困難であると判断し、民間調査組織へ発掘調査業務を委託することで前橋市と合意に至った。業務実施にあたっては市教委の作成する調査仕様書に則り、市教委による監理・指導のもと発掘調査を実施することになった。令和 3 年 4 月 27 日付けで前橋市と民間調査組織である技研コンサル株式会社との間で業務委託契約が締結されるとともに、両者に市教委を加えた三者で協定を締結し、発掘調査に着手した。

なお、遺跡名称「西善福縁遺跡」（遺跡略コード：3G75）の「西善」は町名を採用し、「福縁」は旧小字名を採用したものである。

## II 遺跡の位置と環境

### 地理的環境

西善福縁遺跡は前橋市街地より南東に約 7 km、駒形 IC から西へ約 2 km の、前橋市西善町 947 番 2 外に所在する。遺跡の北側には県道 27 号高崎駒形線、約 700 m 南には北関東自動車道が東西に走行し、また、約 700 m 東には県道 40 号藤岡大胡線が南北に走行している。前橋市は地形と地質の観点から見ると、北東部の赤城火山斜面、南西部の前橋台地、その台地の東に位置する広瀬川低地帯、そして利根川氾濫原の 4 地域に区分される。本遺跡は前橋台地に位置する。

前橋台地は、約 24,000 年前の浅間山の山体崩壊で利根川を流下してきた火山泥流堆積物（前橋泥流堆積物）が基となっている（群馬県史編さん委員会、1991）。泥流堆積後は小河川の浸食・堆積作用を受けるが、硬い泥流層を深く掘りこむことはなく、次第に流路は安定し現在の平坦な台地面が形成されたと考えられている。台地の北西側は台地面と榛名火山東麓斜面との移行部となっていて東に緩く傾斜する地形となっている。北東側は幅 3 km 前後、長さ約 30 km の細長い沖積低地である広瀬川低地帯が広がり、台地との境界になっている。台地の中央には利根川が流れている。利根川は、かつて広瀬川低地帯を流れていたが、天文年間（1532～1554 年）に洪水あるいは人工的に現在の流路に変更されたと考えられている。本遺跡の北・東側には宮川用水が北西～南東方向に流れ、東・南側には藤川が北西～南東方向に流れている。

本遺跡は前橋台地の低地にあたり、遺跡の北側と南側では麥・米を栽培している。調査箇所も元は水田耕作地で、調査区の西側と南側には用水路がある。しかし近年、高崎駒形線沿線は開発が進み、農地は減少している。遺跡の東は中内、西は西善の工業団地となっており、今回の調査も産業用地造成に伴う発掘調査である。

### 歴史的環境

弥生時代以前 本遺跡の位置する前橋台地東部では、繩文・弥生時代の遺跡は少ない。西田Ⅲ遺跡（20）では草創期の有尖頭器、西善尺司遺跡（32）では石器ブロック、徳丸仲田遺跡（31）では石器ブロック群及び隆起線文土器が確認されている。西田遺跡、村中遺跡では、中期～後期の土器が出土しており、近くに集落のあった可能性が推定されている。また、山王若宮 V 遺跡（4）では繩文時代中期の住居跡が 1 軒確認されており、本遺跡

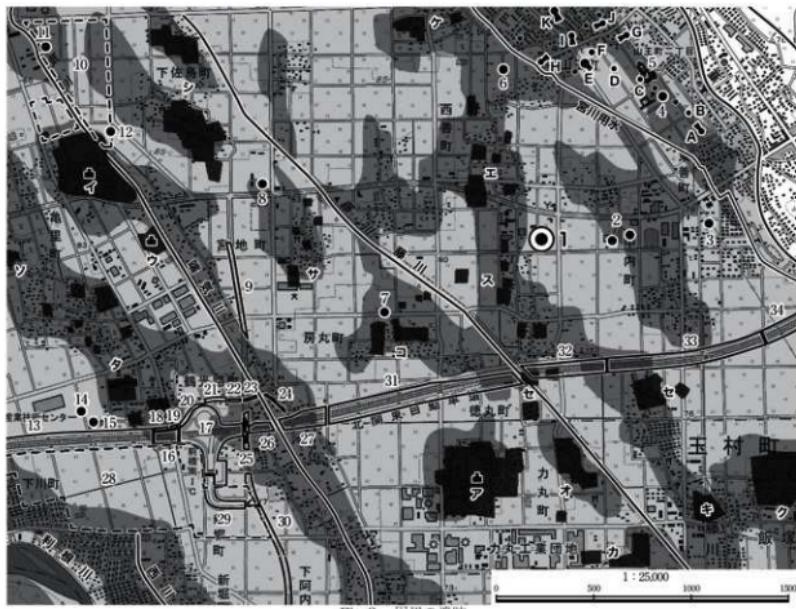


Fig. 3 周辺の遺跡

周辺から縄文時代の遺構が検出される可能性は充分にあるだろう。弥生時代の遺跡も少ないが、利根川左岸沿いの櫛鳥島端遺跡では中期の再葬墓と後期の住居跡が、玉村町の一万田遺跡では後期の再葬墓が確認されている。古墳時代 古墳時代になると遺跡数は増加する。現在の文京町、朝倉町、広瀬町、山王町、東善町の前橋台地上には前期～後期の古墳が集中して築造された。これらの古墳は「朝倉・広瀬古墳群」と呼ばれている。昭和10年に行われた古墳調査によれば、この地区には154基の古墳があったと記録されている。

4世紀初頭では前橋八幡山古墳（全長130m、前方後方墳）があり、この地域を治めた首長の墓と考えられる。4世紀前半から中頃には前橋天神山古墳（全長129m、前方後円墳）が造られた。前橋八幡山古墳に埋葬された首長の地位を受け継いだ人物の墓とされており、埋葬部は大規模な粘土壇で、木棺を安置していた。銅鏡5枚、紡錘車形石製品、銅鏡、鉄製武器類、鉄製農具類など豊富な副葬品が出土している。5世紀代の古墳は数が少ないが、5世紀末から6世紀初頭の亀塚山古墳、上陽村17号墳（J）などがある。6世紀に入ると中頃に天川二子山古墳（全長104m）、後半に不二山古墳（全長54.5m）・山王金冠塚古墳（全長53m）などが造られる。3基は前方後円墳であり、6世紀後半の2基からは金銅製の冠が出土している。

古墳時代の集落・生産遺跡も弥生時代以前と比較して増加する。集落遺跡は台地の微高地上に形成される。後閑团地遺跡、後閑II遺跡、西善尺司遺跡等で住居跡が確認され、西善尺司遺跡では方形周溝墓も確認されている。西田遺跡・村中遺跡・徳丸仲田遺跡では3世紀後葉～4世紀初頭に降下したAs-Cを耕作土に含む水田跡が確認されている。徳丸仲田遺跡では水田に伴う水路も検出されているが、南方に位置する玉村町の砂町遺跡で確認された溝と同一である可能性があり、南北約10kmに渡って水田が開発されていたと推測されている（財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団、2003）。この時期には微高地上に集落、低地内に水田が形成され、前橋台地上の開発が進んでいたと考えられる。後期においても、朝倉工業団地遺跡群（10）・横手湯田遺跡（13）・西田遺

跡・下阿内宅町畑遺跡（29）・西善尺司遺跡・中内村前遺跡（33）などで、5世紀末から6世紀初頭に堆積したHr-FA及びFA洪流水層や6世紀中葉のHr-FP下層から水田跡が確認されており、継続的に水田開発が進められていたと考えられる。

奈良・平安時代 現在の前橋市元総社付近に国府が造られ、そこを拠点として律令制に基づく統一的な国づくりが進められた。この時代の集落も微高地に営まれ、西善尺司遺跡・中内村前遺跡・前田遺跡（34）などの北関東自動車道建設に伴い調査された遺跡や、前田I～VII遺跡（3）・朝倉工業用地遺跡などで住居跡が多数確認されている。本遺跡東側の微高地においても集落が営まれていた可能性が高いと考えられる。生産遺構は、条里型地割に基づいた水田跡が確認されており、特に1108年降下のAs-B直下の水田の検出事例が多い。条里型地割に基づく水田開発の開始時期は明確には判断できないが、前橋市内の中原遺跡群では、弘仁9年（818）に起きた地震に起因する泥流堆積物直下から条里型地割に基づいた水田跡が確認されている。また、西田遺跡では9世紀後半の堅穴住居跡の上にAs-B下水田が造られている。西田遺跡も含め、北関東自動車道建設工事に伴う調査ではAs-B下水田が大規模に広がることが確認されており、西田遺跡では微高地を削平して水田が作られている。また、大畦畔や水田に伴う水路も検出されており、この時代の本遺跡周辺には広大な水田地帯が広がっていたと考えられる。

中世以降 中内村前遺跡では、As-B降下後、水田を復旧したと思われる掘削痕が確認されている。

中世の城館跡は下長磯城・力丸城（ア）・宿阿内城（イ）・阿内古城（ウ）がある。また、本遺跡周辺は環濠造構が多数造られており、本遺跡近くにも西善環濠造構群（エ）・旧西善環濠造構群（ス）がある。発掘調査においても、村中遺跡・徳丸仲田遺跡・西善尺司遺跡・中内村前遺跡・前田遺跡などで中世の環濠造構が確認されている。

天明3年（1783年）には、浅間山の噴火によって浅間A軽石（As-A）が広域に降下・堆積した。下阿内宅町畑遺跡・下阿内前田遺跡（30）ではAs-Aを地中に埋めて処理した灰焼き穴が確認されている。また、この噴火によって泥流が利根川を流れ下り、前橋・玉村地域は甚大な被害を受けた。玉村町の上福島中町遺跡では、泥流によって埋没した民家や畠が確認されている。利根川左岸の伊勢崎市にある宮柴前遺跡では、水田と畠がAs-Aと泥流の2層で埋没しており、水田では人や水鳥の足跡、畠ではイモの塊茎跡が確認されている。

Tab. 1 周辺遺跡一覧

番号	遺跡名	遺跡の概要	報告書・参考文献
1	西善畠跡	平安時代：As-B下水田・中世：土坑・溝。	本報告書
2	西二井遺跡	平安時代以前：土坑。平安時代：As-B下水田。中世：溝。	1988「西二井遺跡」前橋市歴史文化財発掘調査団
3	前田I～VII遺跡	平安時代：住居跡、As-B下水田。溝。	1991「前田遺跡」前田遺跡Ⅲ・1995「前田遺跡Ⅴ」、1999「前田遺跡Ⅳ」、2000「前田遺跡Ⅵ」、2007「前田遺跡Ⅶ」前橋市教育委員会
4	山王若宮V遺跡	縄文時代：住居跡、土坑。古墳時代：住居跡、方形周溝墓。朝・立会船古墳、円墳。中世：溝。	2018「山王若宮V遺跡」前橋市教育委員会
5	山王若宮I～IV遺跡	古墳時代：古墳、前期・中期住居跡、溝、土坑、井戸。	1996「山王若宮I～IV遺跡」、2001「山王若宮Ⅳ遺跡」、2010「年報 第41号」前橋市教育委員会
6	西善経田遺跡	平安時代：住居跡。獨立建物跡。溝、土坑。	1995「西善経田遺跡」西善環濠造構調査会
7	町丸町遺跡	古墳時代・中期住居跡、丘陵・平安時代：住居跡、溝。	2010「町丸町遺跡」前橋市歴史文化財発掘調査団
8	東川遺跡	古墳時代初期の遺跡出土。	1998「東川遺跡」前橋市歴史文化財発掘調査会
9	宮地中田遺跡	平安時代：As-B下水田。	1997「宮地中田遺跡」前橋市歴史文化財発掘調査会
10	朝倉工業用地遺跡群No.1～7	古墳時代：複数住居跡、He-FP下・FP下水田。平安時代：住居跡、As-B下水田。中世：溝。近代：焼夷跡。	2011「朝倉工業用地歴史文化財確認調査報告書」、2012「朝倉工業用地遺跡群No.1」・2013「朝倉工業用地遺跡群No.3」、2014「朝倉工業用地遺跡群No.4」・2015「朝倉工業用地遺跡群No.5」・2016「朝倉工業用地遺跡群No.6」、2015「朝倉工業用地遺跡群No.7」前橋市教育委員会
11	下佐島遺跡	古墳時代：複数住居跡。	1983「下佐島遺跡・下佐島遺跡・宿阿内城跡」前橋市教育委員会
12	川曲遺跡	古墳時代：複数住居跡。	1982「川曲遺跡・東公園古墳」前橋市教育委員会
13	横手田遺跡・横手田Ⅱ遺跡・横手田Ⅲ遺跡・横手田Ⅳ遺跡・横手田Ⅴ遺跡・横手田Ⅵ遺跡・横手田Ⅶ遺跡	古墳時代：圓窓状構築、住居跡、圓窓墓。Hr-FP下水田。Hr-FP下水田。平安時代：As-B下水田。中世：洪水緩下水田。環濠遺跡、近世：櫛塀遺跡・A-E軒右廻石砌築。	2002「横手田II遺跡・横手田III遺跡・横手田IV遺跡・横手田V遺跡・横手田VI遺跡・横手田VII遺跡」財團法人群馬県歴史文化財保存事業団、2003「横手田II遺跡・横手田III遺跡・横手田IV遺跡・横手田V遺跡・横手田VI遺跡・横手田VII遺跡」財團法人群馬県歴史文化財保存事業団
14	龟里里免豆三遺跡	平安時代：As-B下水田。中世：溝。	2005「龜里里免豆三遺跡」前橋市歴史文化財発掘調査会
15	鶴光跡神引遺跡	平安時代 As-B下水田。	1997「鶴光跡神引遺跡」前橋市歴史文化財発掘調査会

番号	遺跡名	遺跡の概要	報告書・参考文献								
16	西田遺跡	古墳時代：As-C 淹土下水田。Hr-FA 下水田。平安時代：後期住居跡、溝。土坑墓。	2002「西田遺跡・村中遺跡」財团法人群馬県歴史文化財調査事業団								
17	村中遺跡	古墳時代：As-C 淹土下水田。平安時代：As-B 下水田。中世：鐵達道跡、近畿：埋葬水、土坑墓。									
18	村中Ⅱ遺跡	平安時代：溝、土坑。	2001「村中Ⅱ遺跡・西田V遺跡」前橋市埋蔵文化財発掘調査団								
19	西田V遺跡	平安時代：溝、土坑。									
20	西田並立柱跡	繩文時代：草創期有舌尖彫器。古墳時代：溝、土坑。平安時代：As-B 下水田。縱立柱建物。中・近畿：溝。	1999「西田並立柱跡」前橋市埋蔵文化財発掘調査団								
21	西田Ⅲ遺跡	平安時代：後期住居跡。As-B 下水田。	1998「横手田Ⅲ遺跡・西田Ⅲ遺跡」前橋市埋蔵文化財発掘調査団								
22	西田Ⅳ遺跡	平安時代：As-B 下水田。中・近畿：溝。	2001「西田Ⅳ遺跡」前橋市埋蔵文化財発掘調査団								
23	鶴光跡横塁II遺跡	平安時代：住居跡。溝、中・近畿：土坑、溝。	2000「鶴光跡横塁II遺跡・鶴丸高塚Ⅰ遺跡」前橋市埋蔵文化財発掘調査団								
24	鶴丸高塚Ⅱ・Ⅲ遺跡	平安時代：住居跡。溝、中・近畿：溝。									
25	西田古遺跡	平安時代：As-B 下水田。中・近畿：溝。	1999「西田古遺跡」前橋市埋蔵文化財発掘調査団								
26	鶴光跡横塁遺跡	平安時代：住居跡。縱立柱建物。As-B 下水田。中世：環濠遺跡。	2002「鶴光跡横塁遺跡」財团法人群馬県埋蔵文化財調査事業団								
27	鶴丸高塚Ⅰ・Ⅲ遺跡	弥生時代以前：溝、土坑。ピット。古墳時代：前期遺物。平安時代：As-B 下水田。中世：縄濠遺跡、土坑、溝。	1999「鶴丸高塚Ⅰ・Ⅲ遺跡」前橋市埋蔵文化財発掘調査団								
28	南部拠点地区遺跡群 No.1～11	古墳時代：堤状造地盤。井戸、溝。Hr-FA 下水田。平安時代：As-B 下水田。溝、中・近畿：縱立柱建物、溝、井戸。水田、近代：築造地。	2009「南部拠点地区遺跡群 No.1」「南部拠点地区遺跡群 No.3」前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2010「南部拠点地区遺跡群 No.4」「南部拠点地区遺跡群 No.5」 2011「南部拠点地区遺跡群 No.6」～2014「南部拠点地区遺跡群 No.7」「南部拠点地区遺跡群 No.8」「南部拠点地区遺跡群 No.9」「南部拠点地区遺跡群 No.11」前橋市教育委員会								
29	下阿内寺町堀遺跡	古墳時代：円形建物跡。土器集落構造。溝。井戸。Hr-FA 下水田。平安時代：As-B 下水田。近畿：As-A 規旧田。	2001「下阿内寺町堀遺跡・下阿内前田遺跡」財团法人群馬県埋蔵文化財調査事業団								
30	下河内前田遺跡	古墳時代：溝。Hr-FA 下水田。平安時代：As-B 下水田。近畿：As-A 規旧田。									
31	鶴丸御田Ⅰ・Ⅳ遺跡	繩文時代：草創期横濠起濠土壁。有舌尖彫器。古墳時代：前期住居跡。As-C 淹土下水田。Hr-FA 下水田。溝。平安時代：後期住居跡。縱立柱建物。As-B 下水田。中世：環濠遺跡。	2003「鶴丸御田Ⅰ」、2003「鶴丸御田Ⅳ」財团法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1998「横手田Ⅱ遺跡・鶴丸御田Ⅱ遺跡・鶴丸御田Ⅲ遺跡・西善尺司Ⅱ遺跡・下増田御田Ⅱ遺跡」、1999「鶴丸御田Ⅲ遺跡・鶴丸御田Ⅳ遺跡・下増田御田Ⅲ遺跡・下増田御田Ⅳ遺跡」前橋市埋蔵文化財発掘調査団								
32	西善尺司Ⅰ・Ⅴ遺跡	繩文時代：古墳プロトク。古墳時代：後漢溝。Hr-FA 下水田。中世：環濠遺跡、火葬堆。	2001「西善尺司Ⅰ遺跡」財团法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1998「横手田Ⅱ遺跡・鶴丸御田Ⅱ遺跡・鶴丸御田Ⅲ遺跡・下増田御田Ⅱ遺跡・西善尺司Ⅱ遺跡・下増田御田Ⅲ遺跡・下増田御田Ⅳ遺跡」前橋市埋蔵文化財発掘調査団								
33	中内村前遺跡	古墳時代：後期住居跡。溝、土坑。旧河底。Hr-FA 下水田。中世：環濠遺跡、水路跡。溝、水田。	2002「中内村前遺跡（1）」、2003「中内村前遺跡（2）」、2005「中内村前遺跡（3）」財团法人群馬県埋蔵文化財調査事業団								
34	前田遺跡	奈良・平安時代：住居跡。井戸、土坑。溝。As-B 下水田。中・近畿：環濠遺跡。井戸。溝。土坑。溝。遺跡用井戸。	2004「前田遺跡」財团法人群馬県埋蔵文化財調査事業団								
古墳名	所在地	残存	形態	時期	備考						
			前方後方	前方後円	帆立貝形	円	方	前	中	後	
A 東高大塚古墳	前橋市東高町	*	●								12.35 m
B 上藤村23分塚		△				●					12.30 m
C 上藤村10分塚		*				●					12.10 m
D 狐塚古墳		*				●					12.25 m
E 阿弥陀山古墳		○			●						12.25 m
F 文殊山古墳		○				●		●			12.50 m
G 上藤村12分塚	前橋市山王町	△			●						12.67 m
H 神農寺旁古墳		*		●							記載漏れにて詳細12不明。
I 上藤村13分塚		*									
J 上藤村17分塚		*						●			
K 山王山冠塚古墳		○		●						●	全長 53 m。金剛製金冠出土。
城・環濠群名称	所在地	時期	築・在・城者	遺構				備考			
				堀	土居	戸口	他				
ア 丸堀	前橋市丸堀町	15・16 C	丸堀氏	○	○	○	○	根小屋	文獻「永禄元記」、「藤生文書」		
イ 別阿内城	前橋市鬼里町	16 C	三輪右丹	○	○	○	○	櫓台、根小屋	文獻「松陰私語」		
ウ 阿内古城	前橋市鬼里町	文明9年	上野源定	○	○	○	○	文獻「松陰私語」			
エ 薮善堀塁遺跡群	前橋市薮善町	16 C		○	○	○	○		6ヶ所の環濠遺構。		
オ 東丸堀塁遺跡群	前橋市丸堀町		新井氏・井野氏現住	○	○	○	○				
カ 慶丸堀塁遺跡群	前橋市鬼里町			○	○	○	○				
キ 川原堀塁遺跡集落	玉村町春川			○	○	○	○				
ク 岩坂堀塁遺跡群	玉村町岩坂町	天文正年間	津木津氏	○	○	○	○		文獻「宇津木氏文書」、「田口文書」。11ヶ所の環濠遺構、整地も確認。		
ケ 山王堀塁遺跡	前橋市山王町			○	○	○	○				
コ 久丸堀塁遺跡群	前橋市久丸町			○	○	○	○				
メ 横瀬堀塁遺跡群	前橋市横瀬町			○	○	○	○				
シ 下佐久鳥塁遺跡	前橋市下佐久町			○	○	○	○				
ヌ 旧西田堀塁遺跡群	前橋市南吾喜町	16 C	御田氏	○	○	○	○		文獻「北条文書」		
ホ 横瀬堀塁遺跡群	前橋市吾喜町			○	○	○	○		6ヶ所の環濠遺構。		
ヲ 前田城	前橋市山里町			○	○	○	○				
タ 鶴光跡堀塁遺跡群	前橋市鶴光町	焦		○	○	○	○		14ヶ所の環濠遺構。		

### III 調査の方針と経過

#### 1 調査範囲と基本方針

今回の発掘調査は、前橋市教育委員会が実施した試掘調査の結果に基づき、産業用地造成に伴う工事計画から現状保存が困難な箇所について発掘調査を実施した。調査区は2箇所あり、北側調査区、南側調査区と呼称した。グリッド座標は国家座標（世界測地系、平面直角座標第IX系）X = 38,400、Y = - 64,400を基点（X = 0、Y = 0）とする4m単位のものを使用し、経線をX、緯線をYとして北西隅から番号を付与した。調査は遺構確認面まで重機（0.45 m<sup>3</sup>バックホウ）で表土を除去した後、人力で遺構確認、遺構掘り下げ、遺構精査、測量・写真撮影の順で実施した。遺構の記録については、トータルステーション・電子平板を用いて測量・編集し、断面図は座標値を付与したオルソフォトに変換して編集を行った。写真記録は35mmモノクロ・リバーサルフィルムカメラ、デジタルカメラの3種類を使用し、調査区全景はドローンで撮影した。整理作業に当たっては、本文・図面・図版にわたる全ての作業をDTPの手法を用いたデジタル編集・組版によって報告書を作成した。

#### 2 調査経過

調査に先立って令和3年4月27日に器材搬入、調査区設定、安全対策として調査区西側の道路沿いにネットフェンスを設置した。30日には重機（0.45 m<sup>3</sup>バックホウ）を搬入し、駐車場や表土掘削のための作業道の整備を行った。翌月5月6日から南側調査区の表土掘削を開始し、表土下40cm前後の深さでAs-B軽石下の水田面を確認した。全体的にAs-B軽石層が薄いため重機では軽石をやや残しながら掘削した。表土掘削と並行して

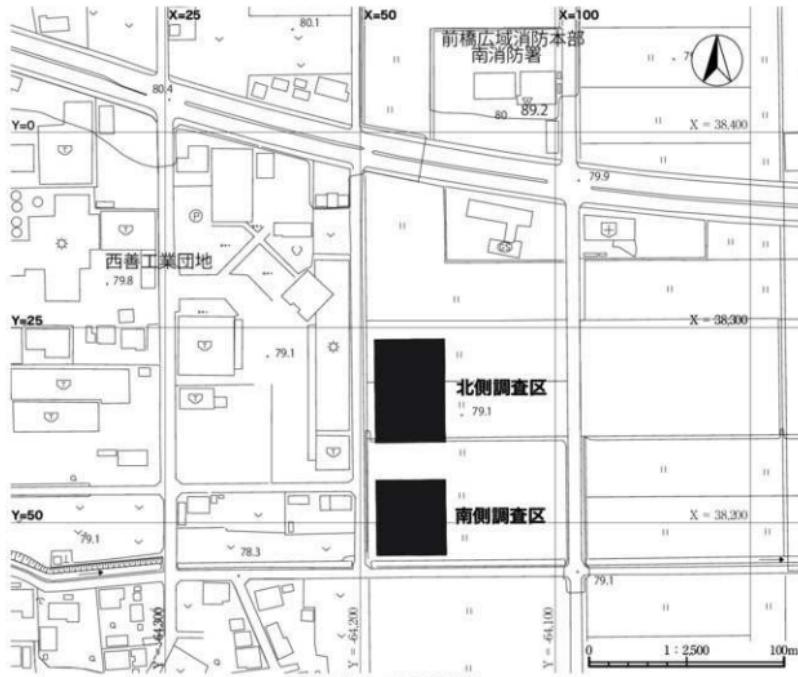


Fig. 4 調査区位置図

ジョレン及び移植ゴテで軽石を除去して水田面を検出し、溝・土坑のプランを確認した箇所は順次掘り下げを行った。調査開始当初は湧水を懸念していたが、遺構を掘り下げても水が湧くことはなかった。しかし、反対に確認面の乾燥が急激に進み、水田面の検出にやや苦労することとなった。8日には北側調査区の表土掘削に着手した。表土掘削最終日の12日には、北側調査区北東隅に幅の広い溝状のプラン（W-20a・b）を確認したため、可能な限り重機で覆土を掘り下げた後、細部の調査に着手した。14日には南側調査区の遺構調査を完了し、翌週17日からは北側調査区の遺構調査を開始した。前週まで安定していた天候が、この週からは崩れる日が出始め、中止や中断を余儀なくされた。加えて、北側調査区は溝を掘ると湧水したため、排水ポンプで排水作業を行なながら調査を進めた。26日には北側調査区の遺構調査を完了し、ドローンによる調査区全景撮影を行った。撮影後、水田畦畔を断ち割って断面を確認し、並行して器材を撤収した。28日には残りの測量作業を完了した。31日には重機で北と南側の調査区に各1本トレンチを入れ、調査面下層における遺構の有無等の状況を断面で確認した後、埋め戻しを開始した。6月から梅雨入りと思われたが、梅雨前線は西日本に停滞したままで、幸いにも雨の影響はありません受けなかった。6月7日に予定通り埋め戻しが完了し、現場調査を終了した。そして翌8日から整理作業を開始した。

## IV 基本層序

本道路周辺は北西から南東へ緩やかに傾斜する地形となっている。調査箇所は前橋台地上の低地に位置する。低地は粘質土壤が形成されやすく、VI層から下層は全て粘質土である。

南側調査区南東隅の南壁を基本層序A、北側調査区南東隅の南壁を基本層序Bとして観察した。加えて、埋め戻し前に重機で各調査区に1本ずつ東西方向にトレンチを掘り、確認面下層の堆積を観察した。I・II層は表土層で、I層は現代の耕作地に伴う盛土層である。II層は現代の耕作土層である。III・IV層は層中にAs-Bを含む中世以降の堆積層である。V層は天仁元年（1108年）の浅間山噴火によって降下したAs-Bの一次堆積層である。VI層は平安時代末期の水田耕作土層で、この層の表面をAs-B下水田の調査面とした。表土層が厚くないため、後世の削平によってV層の薄い箇所が所々確認された。基本層序BではV・VI層が確認できなかったが、全体的に見て南側調査区よりも北側調査区の方がV層の残存状況は良好である。As-B一次堆積層上位の桃色細粒火山灰層は残存状況の良い箇所で部分的に確認された。堆積層最下位の灰色細粒火山灰層は調査区全体で確認された。上位の浅間柏川テフラ（As-Kk）は確認できなかった。基本層序Aでは、V層とVI層の間にわずかなHr-FA洪水層のブロックが確認された。X層は上位から下位に向かって色調が薄くなる。Xb層は南側調査区に設定したトレンチの断面において観察された層である。Xc層はきめの細かい灰白色粘質土層で、基本層序A・B及びトレンチの最下層で共通して確認された。北側調査区トレンチ内のXc層は他の箇所と比較してやや粘性が弱い傾向がみられた。

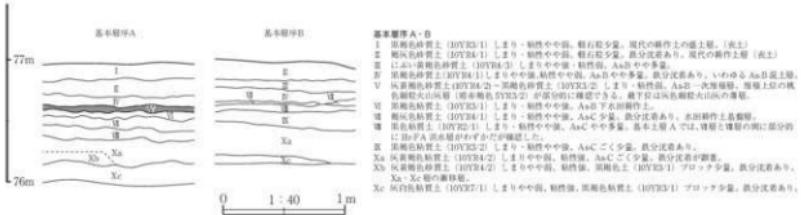


Fig.5 基本層序



Fig. 6 北側調査区全体図

0 1 : 200 5m



Fig. 7 南側調査区全体図

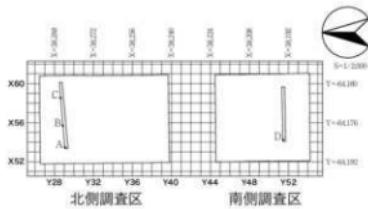


Fig. 8 調査区トレンチ位置図

## V 検出された遺構と遺物

### (1) 調査の概要

天仁元年（1108年）に降下したAs-Bの一次堆積層直下を遺構調査面とした。遺構は、調査区全体でAs-B一次堆積層に被覆された平安時代末期の水田を確認し、中近世以降では、As-Bよりも上位から掘り込まれた溝40条と土坑11基を検出した。溝は覆土の状況と重複関係から2種類に分類できる。一つは東西・南北方向の溝群（W-1～8、12・13、15・16、18～29、31、35～39）である。この溝群の覆土はAs-B混土を主体とする。南北方向の溝は、調査区を横断する東西方向の溝を繋ぐように掘られており、区画溝と考えられる。もう一つは、それらの溝群よりも覆土や重複関係から新しいと考えられる溝（W-9～11、14、17、30、32～34）である。溝・土坑の他には、北側調査区南東部（X59・60、Y36～38）で畦畔に沿って不整形の落ち込みを確認した。覆土はAs-Bを多量に含むため、As-B下水田よりも新しい。これらの遺構を調査した後、下面の遺構を確認するために北と南の調査区にトレーンチ（Fig. 8・12）を各1本設定したが、遺構は確認できなかった。

### (2) As-B下水田面（Fig. 6・7・9、Tab. 2、PL. 2～4）

被覆層と水田の残存状況 水田面を被覆するAs-B一次堆積層（基本層序V層）は厚さ0～9cmで、堆積層上位の桃色細粒火山灰層はAs-Bの残存状況が良好な箇所で部分的に確認した。水田面直上には堆積最下位の灰色細粒火山灰の薄層を確認した。南側調査区はAs-Bが全体的に薄く、水田面に重機や耕作機械の削痕が見られた。そのため畦畔は部分的に確認の困難な箇所があった。南側調査区は後世の溝15条と土坑2基に掘りこまれている。一方、北側調査区は後世の溝25条と土坑9基に掘りこまれている。また、調査区南辺の現代の溝と、北・東辺のL字に走行する現代の溝によって大きく掘りこまれている。南側調査区と比較してAs-Bの残存状況はやや良好で、直下の水田面と畦畔の残存状況は良い。

水田域の地形 調査区全体では、北西から南東へ緩やかに傾斜している。北側調査区の比高差は、北西隅から北東隅は0.02m、北西隅から南東隅は0.37m、北西隅から南西隅は0.33mである。南側調査区の比高差は、北西隅から北東隅は0.13m、北西隅から南東隅は0.24m、北西隅から南西隅は0.13mである。

畦畔の走行方向と区画 畦畔は基本的に東西・南北方向に走行するが、一部で斜向あるいはクランクする畦畔を確認した。畦畔の高まりは全体的に良く残存しているが、畦畔に重複して溝が同一方向に掘り込まれた箇所がある。畦畔は、北側調査区では南北方向で4条、東西方向で6条検出した。南北方向の1条（X53・54、Y28～38）は中間付近（X53・54、Y30～34）でやや西に方向を傾けながら、南から北へ走行するが、東西畦畔との交点（X53・54、Y29・30）を境にしてクランクし、東に位置を移動する。別の1条（X55～59、Y26～37）は大きく西に寄りながら南から北へ走行するが、やはり東西畦畔との交点（X55、Y28）を境にして東に傾いた畦畔が作られている。東西畦畔のうち、調査区中央南寄りの1条（X51～60、Y32～35）は斜めに走行している。斜行する畦畔は南側調査区においても2条検出されている。南側調査区では、調査区南側の東西畦畔（X52～60、Y52）を境にして区画の状況が異なる。北側の区画は、斜行する東西畦畔が見られる。一方、南側の区画は北側よりも細かく区画され、畦畔の途切れる箇所が見られた。

取配水の方法 水口は7箇所検出した。用水路と考えられる溝は確認されなかった。地形の傾斜から、北西から南東方向へ水を流していたと考えられる。

耕作土 黒褐色粘質土（基本層序VI層）を耕作土層、基本層序VII層を水田耕作土基盤層とする。水田面には細かな凸凹があるものの、全体的には平坦である。ただ、水田面18は他と比較して、規則的な凸凹が見られる。表面は周囲の水田面よりも色調が明るく、VI層というよりも下層のVII層に近い。南東隅の基本層序B断面でもVI層が確認されなかったため、水田面18は周囲と耕作状況が異なっていた可能性がある。

足跡 確認できなかった。

出土遺物 灰釉陶器皿が一点出土。小片のため図示には至らず。

時期 天仁元年（1108年）に降下したAs-B一次堆積層（基本層序V層）に直接被覆されている。時期は平安時代末期と考えられる。

### (3) 溝

#### W-1号溝 (Fig. 7・10, PL. 5)

位置 南側調査区 (X52 ~ 60, Y46 ~ 47) 主軸方向 N - 84° - E 規模 長さ (36.01 m) 上幅 0.94 m 下幅 0.45 m 深さ 0.35 m 形状等 東西方向に走行し、調査区を横断する。断面は弧状を呈する。重複 As-B下水田、W - 2・6・7・12と重複し、新旧関係は As-B下水田 → W - 2・6 → 本遺構 → W - 12である。覆土の状況と位置関係から W - 2・6と本遺構はほぼ同時期と推測される。出土遺物 須恵器・土師器の小片が出土。時期 覆土の状況と重複関係から、時期は中近世以降と考えられる。

#### W-2号溝 (Fig. 7・10, PL. 5)

位置 南側調査区 (X53, Y44 ~ 46) 主軸方向 N - 12° - W 規模 長さ (9.93 m) 上幅 1.01 m 下幅 0.34 m 深さ 0.39 m 形状等 南北方向に走行し、南端は W - 1に接する。断面は緩やかなV字状を呈する。重複 As-B下水田、W - 1と重複し、新旧関係は As-B下水田 → 本遺構 → W - 1である。覆土の状況と位置関係から W - 1と本遺構はほぼ同時期と推測される。出土遺物 土師器壺の小片が出土。時期 覆土の状況と重複関係から、時期は中近世以降と考えられる。

#### W-3号溝 (Fig. 7・10, PL. 5)

位置 南側調査区 (X52 ~ 60, Y49 ~ 50) 主軸方向 N - 82.3° - E 規模 長さ (38.39 m) 上幅 1.05 m 下幅 0.44 m 深さ 0.28 m 形状等 東西方向に走行し、調査区を横断する。断面は台形状を呈する。重複 As-B下水田、W - 4・6・14と重複し、新旧関係は As-B下水田 → W - 4・6 → 本遺構 → W - 14である。覆土の状況と位置関係から W - 4・6と本遺構はほぼ同時期と推測される。出土遺物 土師器壺の小片が出土。時期 覆土の状況と重複関係から、時期は中近世以降と考えられる。

#### W-4号溝 (Fig. 7・10)

位置 南側調査区 (X52, Y50 ~ 53) 主軸方向 N - 7° - E 規模 長さ (10.40 m) 上幅 0.65 m 下幅 0.26 m 深さ 0.28 m 形状等 南北方向に走行し、北端は W - 3、南端は W - 5に接する。断面は台形状を呈する。重複 As-B下水田、W - 3・5と重複し、新旧関係は As-B下水田 → 本遺構 → W - 3・5である。覆土の状況と位置関係から W - 3・5と本遺構はほぼ同時期と推測される。出土遺物 土師器壺の小片が出土。時期 覆土の状況と重複関係から、時期は中近世以降と考えられる。

#### W-5号溝 (Fig. 7・10, PL. 5)

位置 南側調査区 (X52 ~ 61, Y52 ~ 53) 主軸方向 N - 85° - E 規模 長さ (35.99 m) 上幅 0.82 m 下幅 0.25 m 深さ 0.23 m 形状等 東西方向に走行し、調査区を横断する。断面はV字状を呈する。重複 As-B下水田、W - 4・8・11・14と重複し、新旧関係は As-B下水田 → W - 4 → 本遺構 → W - 8 → W - 11・14である。覆土の状況と位置関係から W - 4・8と本遺構はほぼ同時期と推測される。出土遺物 須恵器・土師器壺の小片が出土。時期 覆土の状況と重複関係から、時期は中近世以降と考えられる。

#### W-6号溝 (Fig. 7・10, PL. 5)

位置 南側調査区 (X55, Y46 ~ 49) 主軸方向 N - 5° - W 規模 長さ (11.01 m) 上幅 1.15 m 下幅 0.77 m 深さ 0.23 m 形状等 南北方向に走行し、北端は W - 1、南端は W - 3に接する。断面は弧状を呈する。重複 As-B下水田、W - 1・3と重複し、新旧関係は As-B下水田 → 本遺構 → W - 1・3である。覆土の状況と位置関係から W - 1・3と本遺構はほぼ同時期と推測される。出土遺物 なし。時期 覆土の状況と重複関係から、時期は中近世以降と考えられる。

#### W-7号溝 (Fig. 7・10, PL. 5)

位置 南側調査区 (X57, Y44 ~ 46) 主軸方向 N - 11° - W 規模 長さ (8.20 m) 上幅 0.56 m 下幅 0.26 m 深さ 0.36 m 形状等 南北方向に走行し、南端は W - 1に接する。断面はV字状を呈する。重複

As-B 下水田、W-1と重複し、新旧関係は As-B 下水田→本遺構→W-1である。覆土の状況と位置関係から W-1と本遺構はほぼ同時期と推測される。出土遺物なし。時期 覆土の状況と重複関係から、時期は中近世以降と考えられる。

#### W-8号溝 (Fig. 7・10, PL. 5)

位置 南側調査区 (X57, Y50~52) 主軸方向 N-11°-W 規模 長さ (11.36 m) 上幅 0.77 m 下幅 0.45 m 深さ 0.10 m 形状等 南北方向に走行し、南端は W-5に接する。断面は台形状を呈する。重複 As-B 下水田、W-5と重複し、新旧関係は As-B 下水田→W-5→本遺構である。覆土の状況と位置関係から W-5と本遺構はほぼ同時期と推測される。出土遺物なし。時期 覆土の状況と重複関係から、時期は中近世以降と考えられる。

#### W-9号溝 (Fig. 7・10)

位置 南側調査区 (X56~60, Y47・48) 主軸方向 N-80°-E 規模 長さ (17.16 m) 上幅 0.50 m 下幅 0.32 m 深さ 0.06 m 形状等 東西方向に走行し、断面は弧状を呈する。重複 As-B 下水田、W-14と重複している。新旧関係は As-B 下水田→W-14→本遺構と考えられる。出土遺物なし。時期 規模・走行方向・覆土が W-10と類似しており、同時期と推察される。覆土の状況と重複関係から、時期は近世以降と考えられる。

#### W-10号溝 (Fig. 7・10)

位置 南側調査区 (X55~59, Y46・47) 主軸方向 N-78°-E 規模 長さ (12.52 m) 上幅 0.32 m 下幅 0.15 m 深さ 0.06 m 形状等 東西方向に走行し、東側は W-14と重複する。断面は弧状を呈する。重複 As-B 下水田、W-14と重複し、新旧関係は As-B 下水田→W-14→本遺構である。出土遺物なし。時期 規模・走行方向・覆土が W-9と類似しており、同時期と推察される。時期は近世以降と考えられる。

#### W-11号溝 (Fig. 7・10)

位置 南側調査区 (X53, Y53・54) 主軸方向 N-13°-W 規模 長さ (4.16 m) 上幅 0.3 m 下幅 0.11 m 深さ 0.16 m 形状等 南北方向に走行し、断面は弧状を呈する。重複 As-B 下水田、W-5と重複し、新旧関係は As-B 下水田→W-5→本遺構である。出土遺物なし。時期 覆土の状況と重複関係から、時期は近世以降と考えられる。

#### W-12号溝 (Fig. 7・10, PL. 5)

位置 南側調査区 (X60, Y44~46) 主軸方向 N-19°-W 規模 長さ (7.64 m) 上幅 0.6 m 下幅 0.24 m 深さ 0.26 m 形状等 南北方向に走行し、北半部は 2 条に細分できる。断面は弧状を呈する。重複 As-B 下水田、W-1・13・14と重複し、新旧関係は As-B 下水田→W-1→本遺構→W-13→W-14である。覆土の状況と位置関係から W-1・13と本遺構はほぼ同時期と推測される。出土遺物 土師器壺と鉄滓が 1 点出土している。時期 覆土の状況と重複関係から、時期は中近世以降と考えられる。

#### W-13号溝 (Fig. 7・10, PL. 5)

位置 南側調査区 (X60, Y45) 主軸方向 N-74°-E 規模 長さ (1.12 m) 上幅 0.43 m 下幅 0.25 m 深さ 0.27 m 形状等 東西方向に走行し、東端は W-12に接する。断面は台形状を呈する。重複 As-B 下水田、W-12と重複し、新旧関係は As-B 下水田よりも本遺構が新しい。覆土の状況と位置関係から W-12と本遺構はほぼ同時期と推測される。出土遺物なし。時期 覆土の状況と重複関係から、時期は中近世以降と考えられる。

#### W-14号溝 (Fig. 7・10)

位置 南側調査区 (X59~61, Y46~53) 主軸方向 N-14°-W 規模 長さ (36.34 m) 上幅 0.55 m 下幅 0.23 m 深さ 0.16 m 形状等 平面形はコの字形に検出され、南北方向は 2 条に分かれる。断面は台形状

を呈する。南北方向は長さ 27.34m である。重複 As-B 下水田、W - 3・5・9・10・12 と重複し、新旧関係は As-B 下水田 → W - 3・5・12 → 本遺構 → W - 9・10 である。出土遺物 なし。時期 覆土の状況と重複関係から、時期は中近世以降と考えられる。

#### W-15号溝 (Fig. 6・11, PL. 5)

位置 北側調査区 (X51 ~ 60, Y36 ~ 37) 主軸方向 N - 84° - E 規模 長さ (35.97 m) 上幅 0.41 m 下幅 0.20 m 深さ 0.27 m 形状等 東西方向に走行し、調査区を横断する。断面は台形状を呈する。重複 As-B 下水田、W - 17・24・28・30 と重複する。新旧関係は As-B 下水田 → 本遺構 → W - 17・30 である。覆土の状況と位置関係から W - 24・28・29 と本遺構はほぼ同時期と推測される。出土遺物 なし。時期 覆土の状況と重複関係から、時期は中近世以降と考えられる。

#### W-16号溝 (Fig. 6・11, PL. 5)

位置 北側調査区 (X51 ~ 60, Y34) 主軸方向 N - 85° - E 規模 長さ (36.00 m) 上幅 0.6 m 下幅 0.24 m 深さ 0.38 m 形状等 東西方向に走行し、調査区を横断する。断面は台形状を呈する。重複 As-B 下水田、W - 17・22・23・27・28・30 と重複する。新旧関係は As-B 下水田 → 本遺構 → W - 22・23・27・28 → W - 17・30 である。覆土の状況と位置関係から W - 22・23・27・28 と本遺構はほぼ同時期と推測される。出土遺物 土師器坏の小片が出土。時期 覆土の状況と重複関係から、時期は中近世以降と考えられる。

#### W-17号溝 (Fig. 6・11)

位置 北側調査区 (X51 ~ 53, Y33 ~ 38) 主軸方向 N - 0° - E 規模 長さ (29.56 m) 上幅 0.31 m 下幅 0.12 m 深さ 0.26 m 形状等 X53, Y33 で屈曲する L 字形に検出され、断面は台形状を呈する。重複 As-B 下水田、W - 15・16・22・23 と重複する。新旧関係は As-B 下水田 → W - 15・16・22・23 → 本遺構である。出土遺物 なし。時期 覆土の状況と重複関係から、時期は近世以降と考えられる。

#### W-18号溝 (Fig. 6・11, PL. 6)

位置 北側調査区 (X51 ~ 59, Y31・32) 主軸方向 N - 86° - E 規模 長さ (32.51 m) 上幅 0.45 m 下幅 0.16 m 深さ 0.23 m 形状等 東西方向に走行し、調査区を横断する。断面は弧状を呈する。重複 As-B 下水田、W - 21・22・26・27・30・34 と重複する。新旧関係は As-B 下水田 → 本遺構 → W - 30・34 である。覆土の状況と位置関係から W - 21・22・26・27 と本遺構はほぼ同時期と推測される。出土遺物 なし。時期 覆土の状況と重複関係から、時期は中近世以降と考えられる。

#### W-19号溝 (Fig. 6・11, PL. 6)

位置 北側調査区 (X51 ~ 59, Y29・30) 主軸方向 N - 85° - E 規模 長さ (31.19 m) 上幅 0.58 m 下幅 0.23 m 深さ 0.32 m 形状等 東西方向に走行し、調査区を横断する。断面は台形状を呈する。重複 As-B 下水田、W - 21・26・30・32 と重複する。新旧関係は As-B 下水田 → W - 30・32 である。覆土の状況と位置関係から W - 21・26 と本遺構はほぼ同時期と推測される。出土遺物 なし。時期 覆土の状況と重複関係から、時期は中近世以降と考えられる。

#### W-20a・b号溝 (Fig. 6・11, PL. 4・6)

位置 北側調査区 (X51 ~ 60, Y26 ~ 35) 主軸方向 a N - 10° - W (南北方向)・N - 87° - E (東西方向)、b N - 85° - W 規模 長さ (58.37 m) 上幅 0.52 ~ 3.86 m 下幅 0.19 ~ 1.50 m 深さ 0.14 ~ 0.54 m 形状等 a・b はそれぞれ L 字形を呈する。南北に走行する a の東側は走行方向を同じくする現代の溝と重複し、西側は縁に浅い溝が掘り直されている。a は東西方向の断面は台形状、南北方向の断面は緩い V 字状を呈する。東西方向の b は蛇行し、東に向かって幅広となる。西端は現代の溝と重複し、東端も L 字に屈曲した所で現代の溝と重複する。断面は弧状を呈する。重複 As-B 下水田、W - 16・21・25・26・30 ~ 33・39 と重複する。新旧関係は As-B 下水田 → 本遺構 → W - 30・32・33 である。覆土の状況や位置関係から、W - 16・21・25・26・31・39 と

W - 20a はほぼ同時期と推測される。また、覆土の堆積状況から a が埋没した後に b が掘り直されたと考えられる。出土遺物 土鍋の破片 1 点、須恵器・土器部の壊棄が数点出土。 時期 覆土の状況と重複関係から、時期は中近世以降と考えられる。 備考 W - 20a・b は断面にラミナ（葉理構造）が観察されており、流水していたと考えられる。

#### W-20c 号溝 (Fig. 6・11)

位置 北側調査区 (X56 ~ 58, Y27) 主軸方向 N - 82° - E 規模 長さ (10.10 m) 上幅 0.20 m 下幅 0.08 m 深さ 0.08 m 形状等 東西方向に走行し、断面は弧状を呈する。重複 As-B 下水田、W - 20b・31 と重複する。新旧関係は As-B 下水田 → W 20b・31 → 本造構である。調査時は W - 20a・b に付随する溝と考えていたが、W - 30 と覆土が類似し、W - 20a・b との重複部分で W - 30 と繋がると仮定すると、W - 30 と同一の可能性が考えられる。出土遺物 なし。 時期 時期は近世以降と考えられる。

#### W-21 号溝 (Fig. 6・11)

位置 北側調査区 (X53, Y28 ~ 32) 主軸方向 N - 4° - W 規模 長さ (15.95 m) 上幅 0.35 m 下幅 0.23 m 深さ 0.15 m 形状等 南北方向に走行し、北端は W - 20a に接し、南端は W - 18 に接する。断面は台形状を呈する。重複 As-B 下水田、W - 18・19・20a と重複する。新旧関係は As-B 下水田 → W - 19・20 → 本造構 → W - 18 である。覆土の状況と位置関係から W - 18・19・20 と本造構はほぼ同時期と推測される。

出土遺物 土器部の小片が 1 点出土。 時期 覆土の状況と重複関係から、時期は中近世以降と考えられる。

#### W-22 号溝 (Fig. 6・11)

位置 北側調査区 (X53, Y32 ~ 34) 主軸方向 N - 10° - W 規模 長さ (9.93 m) 上幅 0.39 m 下幅 0.2 m 深さ 0.15 m 形状等 南北方向に走行し、北端は W - 18 に接し、南端は W - 16 に接する。断面は弧状を呈する。重複 As-B 下水田、W - 16・17・18 と重複する。新旧関係は As-B 下水田 → W - 16 → 本造構 → W - 18 → W - 17 である。覆土の状況と位置関係から W - 16・18 と本造構はほぼ同時期と推測される。

出土遺物 なし。 時期 覆土の状況と重複関係から、時期は中近世以降と考えられる。

#### W-23 号溝 (Fig. 6・11)

位置 北側調査区 (X53, Y34 ~ 36) 主軸方向 N - 5° - W 規模 長さ (7.75 m) 上幅 0.38 m 下幅 0.13 m 深さ 0.14 m 形状等 南北方向に走行し、北端は W - 16 に接し、南端は W - 17 と重複し不明だが、W - 15 に繋がると考えられる。断面は弧状を呈する。重複 As-B 下水田、W - 16・17 と重複する。新旧関係は As-B 下水田 → W - 16 → 本造構 → W - 17 である。覆土の状況と位置関係から W - 16 と本造構はほぼ同時期と推測される。出土遺物 なし。 時期 覆土の状況と重複関係から、時期は中近世以降と考えられる。

#### W-24 号溝 (Fig. 6・11)

位置 北側調査区 (X53, Y36 ~ 38) 主軸方向 N - 4° - W 規模 長さ (7.65 m) 上幅 0.34 m 下幅 0.12 m 深さ 0.14 m 形状等 南北方向に走行し、北端は W - 15 に接する。断面は弧状を呈する。重複 As-B 下水田、W - 15 と重複する。新旧関係は As-B 下水田 → W - 15 → 本造構である。覆土の状況と位置関係から W - 15 と本造構はほぼ同時期と推測される。出土遺物 なし。 時期 覆土の状況と重複関係から、時期は中近世以降と考えられる。

#### W-25 号溝 (Fig. 6・12)

位置 北側調査区 (X53・54, Y26・27) 主軸方向 N - 14° - W 規模 長さ (4.26 m) 上幅 0.55 m 下幅 0.26 m 深さ 0.21 m 形状等 南北方向に走行し 2 条に分かれる。南端は W - 20a に接する。断面は弧状を呈する。重複 As-B 下水田、W - 20a と重複する。新旧関係は As-B 下水田よりも新しい。覆土の状況と位置関係から W - 20a と本造構はほぼ同時期と推測される。出土遺物 なし。 時期 覆土の状況と重複関係から、時期は中近世以降と考えられる。

#### **W- 26 号溝 (Fig. 6・12)**

位置 北側調査区(X55・56、Y27～31) 主軸方向 N-7°-W 規模 長さ(16.09 m) 上幅0.36 m 下幅0.1 m 深さ0.15 m 形状等 南北方向に走行し、北端はW-20aに接し、南端はW-18に接する。断面は台形状を呈する。重複 As-B下水田、W-18・19・20a・33と重複する。新旧関係はAs-B下水田→W-19・20a→本造構→W-18→W-30と考えられる。覆土の状況と位置関係からW-18・19・20aと本造構はほぼ同時期と推測される。出土遺物 なし。時期 覆土の状況と重複関係から、時期は中近世以降と考えられる。

#### **W- 27 号溝 (Fig. 6・12)**

位置 北側調査区(X55・56、Y32～34) 主軸方向 N-5°-W 規模 長さ(10.09 m) 上幅0.39 m 下幅0.21 m 深さ0.12 m 形状等 南北方向に走行し、北端はW-18に接し、南端はW-16に接する。断面は弧状を呈する。重複 As-B下水田、W-16・18と重複する。As-B下水田よりも新しく、覆土の状況と位置関係からW-16・18と本造構はほぼ同時期と推測される。出土遺物 須恵器・土師器の壺の小片がそれぞれ1点出土。時期 覆土の状況から、時期は中近世以降と考えられる。

#### **W- 28 号溝 (Fig. 6・12)**

位置 北側調査区(X56、Y34～36) 主軸方向 N-3°-W 規模 長さ(7.62 m) 上幅0.31 m 下幅0.13 m 深さ0.15 m 形状等 南北方向に走行し、北端はW-16に接し、南端はW-15に接する。断面は台形状を呈する。重複 As-B下水田、W-15・16と重複する。As-B下水田よりも新しく、覆土の状況と位置関係からW-15・16と本造構はほぼ同時期と推測される。出土遺物 なし。時期 覆土の状況と重複関係から、時期は中近世以降と考えられる。

#### **W- 29 号溝 (Fig. 6・12)**

位置 北側調査区(X55、Y36～38) 主軸方向 N-5°-W 規模 長さ(7.8 m) 上幅0.34 m 下幅0.13 m 深さ0.13 m 形状等 南北方向に走行し、北端はW-15に接する。断面は台形状を呈する。重複 As-B下水田、W-15と重複する。As-B下水田よりも新しく、覆土の状況と位置関係からW-15と本造構はほぼ同時期と推測される。出土遺物 なし。時期 覆土の状況と重複関係から、時期は中近世以降と考えられる。

#### **W- 30 号溝 (Fig. 6・12)**

位置 北側調査区(X56～60、Y27～38) 主軸方向 N-3°-W 規模 長さ(81.41 m) 上幅0.28 m 下幅0.1 m 深さ0.12 m 形状等 平面はFの字状に走行し、断面はV字状を呈する。重複 As-B下水田、W-15・16・18・19・20aよりも新しい。覆土の状況からW-33と本造構はほぼ同時期と推測される。出土遺物 土師器壺の小片が2点出土。時期 覆土の状況と重複関係から、時期は近世以降と考えられる。

#### **W- 31 号溝 (Fig. 6・12)**

位置 北側調査区(X56、Y26・27) 主軸方向 N-4°-W 規模 長さ(4.48 m) 上幅0.34 m 下幅0.17 m 深さ0.22 m 形状等 南北方向に走行し、南端はW-20bと重複する。断面は台形状を呈する。重複 As-B下水田、W-20b・cと重複する。新旧関係はAs-B下水田→本造構→W-20b→W-20cである。出土遺物 なし。時期 覆土の状況と重複関係から、時期は中近世以降と考えられる。

#### **W- 32 号溝 (Fig. 6・12)**

位置 北側調査区(X58・59、Y27～31) 主軸方向 N-7°-W 規模 長さ(19.1 m) 上幅0.45 m 下幅0.25 m 深さ0.13 m 形状等 平面はL字形に検出し、断面は台形状を呈する。重複 As-B下水田、W-19・20a・33・34と重複する。新旧関係はAs-B下水田→W-19・20a→本造構である。覆土や位置関係から、W-34と本造構はほぼ同時期と推測される。出土遺物 土鍋の破片が1点出土。時期 覆土の状況と重複関係から、時期は近世以降と考えられる。

### **W- 33号溝 (Fig. 6・12)**

位置 北側調査区(X56～59、Y30・31) 主軸方向 N-79°-E 規模 長さ(1333m) 上幅0.29m 下幅0.14m 深さ0.04m 形状等 東西に走行する。重複 As-B下水田→W-26→本造構である。W-32とは覆土が類似しているため、同時期の可能性がある。。。出土遺物 なし。時期 覆土の状況と重複関係から、時期は近世以降と考えられる。

### **W- 34号溝 (Fig. 6・11・12)**

位置 北側調査区(X58～60、Y31～33) 主軸方向 N-6°-W 規模 長さ(1384m) 上幅0.33m 下幅0.01m 深さ0.04m 形状等 平面はL字形に走行し、北端はW-32と重複する。断面は弧状を呈する。重複 As-B下水田、W-18・32と重複する。新旧関係は、As-B下水田→W-18→本造構である。覆土の状況や位置関係からW-32と本造構はほぼ同時期と推測される。出土遺物 なし。時期 覆土の状況と重複関係から、時期は近世以降と考えられる。

### **W- 35号溝 (Fig. 6・9・12, PL. 6)**

位置 北側調査区(X51～60、Y39) 主軸方向 N-86°-E 規模 長さ(35.25m) 上幅0.91m 下幅0.46m 深さ0.24m 形状等 東西方向に走行し、調査区を横断する。断面は弧状を呈する。重複 新旧関係はAs-B下水田→本造構である。覆土の状況と位置関係からW-36・37と本造構はほぼ同時期と推測される。出土遺物 土器器の壺・壺が4点出土。時期 覆土の状況と重複関係から、時期は中近世以降と考えられる。

### **W- 36号溝 (Fig. 6・12)**

位置 北側調査区(X58、Y39) 主軸方向 N-8°-W 規模 長さ(2.13m) 上幅0.65m 下幅0.51m 深さ0.18m 形状等 南北方向に走行し、北端はW-35に接する。断面は底面に段差があるがおよそ台形状を呈する。重複 As-B下水田→本造構である。W-35とは覆土の状況と位置関係からほぼ同時期と推測される。出土遺物 なし。時期 覆土の状況と重複関係から、時期は中近世以降と考えられる。

### **W- 37号溝 (Fig. 6・12)**

位置 北側調査区(X56、Y39) 主軸方向 N-3°-W 規模 長さ(185m) 上幅0.53m 下幅0.39m 深さ0.2m 形状等 南北方向に走行し、北端はW-35に接する。断面は台形状を呈する。重複 As-B下水田→本造構である。覆土の状況と位置関係からW-35と本造構はほぼ同時期と推測される。出土遺物 なし。時期 覆土の状況と重複関係から、時期は中近世以降と考えられる。

### **W- 38号溝 (Fig. 6・12)**

位置 北側調査区(X59、Y26) 主軸方向 N-5°-W 規模 長さ(1.4m) 上幅0.88m 下幅0.59m 深さ0.13m 形状等 南北方向に走行し、2条の溝に細分される。断面は台形状を呈する。重複 As-B下水田→本造構である。出土遺物 なし。時期 覆土の状況と重複関係から、時期は中近世以降と考えられる。

### **W- 39号溝 (Fig. 6・12)**

位置 北側調査区(X59、Y26) 主軸方向 N-9°-E 規模 長さ(3.56m) 上幅0.66m 下幅0.36m 深さ0.21m 形状等 南北方向に走行し、断面は台形状を呈する。重複 As-B下水田、W-20bと重複する。As-B下水田→W-20b→本造構である。As-B混土(基本土層IV層)堆積時には埋没しており、W-20bよりもやや古いと考えられる。出土遺物 なし。時期 覆土の状況と重複関係から、時期は中近世以降と考えられる。

### **W- 40号溝 (Fig. 7)**

位置 南側調査区(X52～57、Y44～46・49～53) 主軸方向 N-32°-W 規模 長さ(30.64m) 上幅0.35m 下幅0.16m 形状等 調査区を斜めに走行する。平面は不整形で掘り込みは浅い。途中で途切れるが、連続する溝と推測される。耕具による掘削痕列の可能性あり。重複 As-B下水田、W-3・5と重複する。

As-B 下水田調査時に確認しているが、畦畔を削平しているため、As-B 下水田よりも新しいと考えられる。出土遺物 なし。時期 時期は中近世以降と考えられる。

#### (4) 土坑

##### D - 1号土坑 (Fig. 7・12)

位置 南側調査区 (X52、Y48) 規模 長軸 0.43 m 短軸 0.43 m 深さ 0.12 m 形状 平面は円形、断面は弧状を呈する。重複 As-B 下水田と重複する。新旧関係は As-B 下水田→本遺構である。出土遺物 なし。

時期 覆土は As-B 混土（基本層序IV層）を主体とする。時期は中近世以降と考えられる。

##### D - 2号土坑 (Fig. 7・12)

位置 南側調査区 (X54、Y48) 規模 長軸 0.31 m 短軸 0.27 m 深さ 0.1 m 形状 平面は円形、断面は台形状を呈する。重複 As-B 下水田と重複する。新旧関係は As-B 下水田→本遺構である。出土遺物 なし。

時期 覆土は As-B 混土（基本層序IV層）を主体とする。時期は中近世以降と考えられる。

##### D - 3号土坑 (Fig. 6・12)

位置 北側調査区 (X52、Y33・34) 規模 長軸 0.41 m 短軸 0.34 m 深さ 0.1 m 形状 平面は円形、断面は弧状を呈する。重複 As-B 下水田と重複する。新旧関係は As-B 下水田→本遺構である。出土遺物 なし。

時期 覆土は As-B 混土（基本層序IV層）を主体とする。時期は中近世以降と考えられる。

##### D - 4号土坑 (Fig. 6・12)

位置 北側調査区 (X51、Y31) 規模 長軸 0.34 m 短軸 0.28 m 深さ 0.11 m 形状 平面は円形、断面は弧状を呈する。重複 As-B 下水田と重複する。新旧関係は As-B 下水田→本遺構である。出土遺物 なし。

時期 覆土は As-B 混土（基本層序IV層）を主体とする。時期は中近世以降と考えられる。

##### D - 5号土坑 (Fig. 6・12)

位置 北側調査区 (X52、Y29) 規模 長軸 0.51 m 短軸 0.25 m 深さ 0.15 m 形状 平面は長楕円形、断面は弧状を呈する。重複 As-B 下水田と重複する。新旧関係は As-B 下水田→本遺構である。出土遺物 なし。

時期 覆土は As-B 混土（基本層序IV層）を主体とする。時期は中近世以降と考えられる。

##### D - 6号土坑 (Fig. 6・12)

位置 北側調査区 (X54、Y36) 規模 長軸 0.3 m 短軸 0.27 m 深さ 0.07 m 形状 平面は円形、断面は台形状を呈する。重複 As-B 下水田と重複する。新旧関係は As-B 下水田→本遺構である。出土遺物 なし。

時期 覆土は As-B 混土（基本層序IV層）を主体とする。時期は中近世以降と考えられる。

##### D - 7号土坑 (Fig. 6・12, PL. 6)

位置 北側調査区 (X56、Y26) 規模 長軸 0.5 m 短軸 0.48 m 深さ 0.17 m 形状 平面は楕円形、断面は弧状を呈する。重複 As-B 下水田と重複する。新旧関係は As-B 下水田→本遺構である。出土遺物 なし。

時期 覆土に As-B を含む。時期は中近世以降と考えられる。

##### D - 8号土坑 (Fig. 6・12)

位置 北側調査区 (X59、Y32) 規模 長軸 0.36 m 短軸 0.35 m 深さ 0.11 m 形状 平面は円形、断面は弧状を呈する。重複 As-B 下水田と重複する。新旧関係は As-B 下水田→本遺構である。出土遺物 なし。

時期 覆土は As-B 混土（基本層序IV層）を主体とする。時期は中近世以降と考えられる。

##### D - 9号土坑 (Fig. 6・12)

位置 北側調査区 (X54、Y32) 規模 長軸 0.29 m 短軸 0.27 m 深さ 0.1 m 形状 平面は円形、断面は弧状を呈する。重複 As-B 下水田と重複する。新旧関係は As-B 下水田→本遺構である。出土遺物 なし。

時期 覆土は As-B 混土（基本層序IV層）を主体とする。時期は中近世以降と考えられる。

### D - 10号土坑 (Fig. 6・12)

位置 北側調査区(X55、Y32) 規模 長軸0.45m 短軸0.36m 深さ0.14m 形状 平面は円形、断面は弧状を呈する。重複 As-B下水田と重複する。新旧関係はAs-B下水田→本造構である。出土遺物 なし。

時期 覆土はAs-B混土(基本層序IV層)を主体とする。時期は中近世以降と考えられる。

### D - 11号土坑 (Fig. 6・12、PL. 6)

位置 北側調査区(X54、Y35) 規模 長軸0.36m 短軸0.29m 深さ0.05m 形状 平面は方形、断面は台形状を呈する。重複 As-B下水田と重複する。新旧関係はAs-B下水田→本造構である。出土遺物 なし。

時期 覆土はAs-B混土(基本層序IV層)を主体とする。時期は中近世以降と考えられる。

Tab. 2 As-B下水田計測表

調査区 田 面	グリッド	面積 (m <sup>2</sup> )	東西 (m)	南北 (m)	標高(m)					備考
					NW	NE	中央	SW	SE	
北 1	X = 38,200 ~ 38,250 Y = -64,184 ~ -64,192	(162)	(834)	(263)	78.10	78.10	78.10	78.07	78.03	
北 2	X = 38,250 Y = -64,175 ~ -64,184	(67)	(888)	(0.8)	78.06	78.12	78.11	78.12	78.06	
北 3	X = 38,292 ~ 38,289 Y = -64,156 ~ -64,172	(265)	(16.17)	(4.67)	78.11	78.09	78.07	78.11	78.04	
北 4	X = 38,288 ~ 38,290 Y = -64,183 ~ -64,192	(291)	(873)	4.94	78.04	78.01	78.02	78.03	78.03	
北 5	X = 38,286 ~ 38,292 Y = -64,175 ~ -64,183	(181)	(780)	5.29	78.06	78.06	78.05	78.04	78.07	
北 6	X = 38,280 ~ 38,289 Y = -64,176 ~ -64,162	(846)	(10.34)	16.75	78.06	78.01	78.02	78.00	78.00	
北 7	X = 38,277 ~ 38,286 Y = -64,183 ~ -64,192	(479)	(9.26)	5.58	78.01	78.02	78.00	77.98	78.00	
北 8	X = 38,280 ~ 38,287 Y = -64,172 ~ -64,183	(531)	8.74	6.36	78.01	77.98	77.98	78.00	78.00	
北 9	X = 38,369 ~ 38,278 Y = -64,186 ~ -64,192	(483)	(6.0)	7.05	77.98	77.98	77.98	77.94	77.91	
北 10	X = 38,259 ~ 38,279 Y = -64,167 ~ -64,186	(255.6)	15.12	19.52	77.95	77.95	77.93	77.91	77.89	西に水口
北 11	X = 38,275 ~ 38,281 Y = -64,162 ~ -64,171	(359)	(9.21)	(4.62)	78.01	78.00	77.98	77.96	77.96	
北 12	X = 38,258 ~ 38,269 Y = -64,183 ~ -64,192	(624)	6.97	10.14	77.94	77.98	77.93	77.94	77.92	南と東に水口
北 13	X = 38,266 ~ 38,276 Y = -64,159 ~ -64,170	(665)	8.15	(8.87)	77.94	77.96	77.94	77.90	77.89	
北 14	X = 38,243 ~ 38,259 Y = -64,183 ~ -64,192	(1163)	8.5	(16.48)	77.93	77.91	77.89	77.76	77.87	北と東に水口
北 15	X = 38,244 ~ 38,233 Y = -64,173 ~ -64,183	(1174)	8.9	(16.15)	77.91	77.87	77.85	77.86	77.85	西に水口
北 16	X = 38,245 ~ 38,266 Y = -64,163 ~ -64,174	(1391)	9.29	(18.43)	77.86	77.86	77.85	77.84	77.79	北東と西に水口
北 17	X = 38,259 ~ 38,267 Y = -64,157 ~ -64,167	(564)	(7.78)	8.45	77.88	77.89	77.87	77.86	77.86	北西に水口
北 18	X = 38,245 ~ 38,258 Y = -64,156 ~ -64,164	(849)	(7.25)	(1296)	77.83	77.80	77.74	77.74	77.75	
北 19	X = 38,240 ~ 38,242 Y = -64,173 ~ -64,190	(119)	(16.66)	(0.75)	77.77	77.80	77.81	-	77.80	
北 20	X = 38,241 ~ 38,242 Y = -64,164 ~ -64,173	(120)	(7.95)	(1.54)	77.81	77.72	77.79	77.81	77.72	
北 21	X = 38,241 ~ 38,244 Y = -64,156 ~ -64,164	(92)	(7.97)	(1.1)	77.74	77.74	77.74	77.74	77.74	
南 22	X = 38,213 ~ 38,221 Y = -64,184 ~ -64,192	(495)	(7.41)	(7.97)	77.29	77.28	77.28	77.28	77.28	
南 23	X = 38,214 ~ 38,224 Y = -64,165 ~ -64,184	(866)	(17.83)	(7.82)	77.74	77.73	77.72	77.74	77.71	
南 24	X = 38,212 ~ 38,222 Y = -64,159 ~ -64,184	(870)	24.72	(47)	77.25	77.20	77.09	77.73	77.69	
南 25	X = 38,215 ~ 38,224 Y = -64,156 ~ -64,159	(89)	(2.67)	(6.32)	77.71	77.71	77.64	77.67	77.68	
南 26	X = 38,198 ~ 38,213 Y = -64,184 ~ -64,191	(864)	(6.29)	(14.0)	77.77	77.74	77.74	77.70	77.71	
南 27	X = 38,199 ~ 38,212 Y = -64,172 ~ -64,185	(124.3)	12.28	(1.34)	77.72	77.70	77.69	77.68	77.66	
南 28	X = 38,201 ~ 38,214 Y = -64,162 ~ -64,172	(184.8)	13.55	(1.94)	77.69	77.71	77.69	77.64	77.66	
南 29	X = 38,194 ~ 38,214 Y = -64,156 ~ -64,158	(223)	(2.41)	(10.55)	77.72	77.69	77.68	77.65	77.65	
南 30	X = 38,190 ~ 38,195 Y = -64,190 ~ -64,191	(38)	(0.89)	(5.09)	-	77.74	77.75	77.70	77.70	
南 31	X = 38,190 ~ 38,194 Y = -64,184 ~ -64,191	(457)	6.12	(8.31)	77.67	77.67	77.74	77.72	77.73	
南 32	X = 38,189 ~ 38,199 Y = -64,172 ~ -64,185	(525)	6.44	(9.48)	77.71	77.70	77.70	77.73	77.72	南に水口
南 33	X = 38,188 ~ 38,199 Y = -64,169 ~ -64,180	(754)	9.27	(8.72)	77.68	77.66	77.66	77.70	77.68	南西に水口
南 34	X = 38,189 ~ 38,201 Y = -64,159 ~ -64,170	(90.9)	(8.99)	(11.44)	77.64	77.66	77.63	77.66	77.62	
南 35	X = 38,196 ~ 38,201 Y = -64,157 ~ -64,161	(129)	(2.81)	(5.61)	77.66	77.63	77.63	77.63	77.63	
南 36	X = 38,196 ~ 38,203 Y = -64,156 ~ -64,158	(92)	(1.64)	6.98	77.63	77.63	77.62	77.63	77.63	
南 37	X = 38,188 ~ 38,195 Y = -64,155 ~ -64,159	(157)	(2.61)	6.84	77.62	77.63	77.61	77.68	77.61	
南 38	X = 38,192 ~ 38,196 Y = -64,156 ~ -64,157	(24)	(1.18)	(3.47)	77.63	-	77.61	77.61	77.61	
南 39	X = 38,185 ~ 38,189 Y = -64,183 ~ -64,191	(242)	(7.88)	3.97	77.72	77.71	77.67	77.66	77.66	南東に水口
南 40	X = 38,185 ~ 38,188 Y = -64,177 ~ -64,183	(152)	5.68	3.43	77.66	77.66	77.67	77.64	77.63	南西に水口
南 41	X = 38,185 ~ 38,188 Y = -64,169 ~ -64,177	(149)	7.53	(1.9)	77.66	77.64	77.65	77.65	77.64	
南 42	X = 38,184 ~ 38,186 Y = -64,166 ~ -64,169	(75)	2.01	(3.44)	77.64	77.64	77.64	77.63	77.62	
南 43	X = 38,185 ~ 38,188 Y = -64,162 ~ -64,166	(128)	4.57	(3.34)	77.63	77.58	77.59	77.59	77.58	南東に水口
南 44	X = 38,186 ~ 38,188 Y = -64,155 ~ -64,164	(81)	(5.84)	1.31	77.59	77.59	77.60	77.63	77.59	南西に水口

調査区	田面	グリッド	面積 (m)	東西 (m)	南北 (m)	標高 (m)					備考
						NW	NE	中央	SW	SE	
南	45	X = 38.183 - 38.184 Y = - 64.183 - - 64.191	(118)	(796)	(174)	77.69	77.68	77.68	77.69	77.70	
南	46	X = 38.183 - 38.185 Y = - 64.177 - - 64.183	(101)	578	(167)	77.67	77.64	77.66	77.70	77.62	
南	47	X = 38.183 - 38.185 Y = - 64.169 - - 64.177	(152)	784	(281)	77.65	77.62	77.62	77.62	77.62	
南	48	X = 38.183 - 38.185 Y = - 64.169 - - 64.177	(152)	784	(281)	77.65	77.62	77.62	77.62	77.62	
南	49	X = 38.183 - 38.185 Y = - 64.160 - - 64.168	(123)	674	(312)	77.58	77.57	77.57	-	77.57	
南	50	X = 38.183 - 38.186 Y = - 64.155 - - 64.161	(142)	784	(281)	77.65	77.62	77.62	77.62	77.62	

### 畦畔

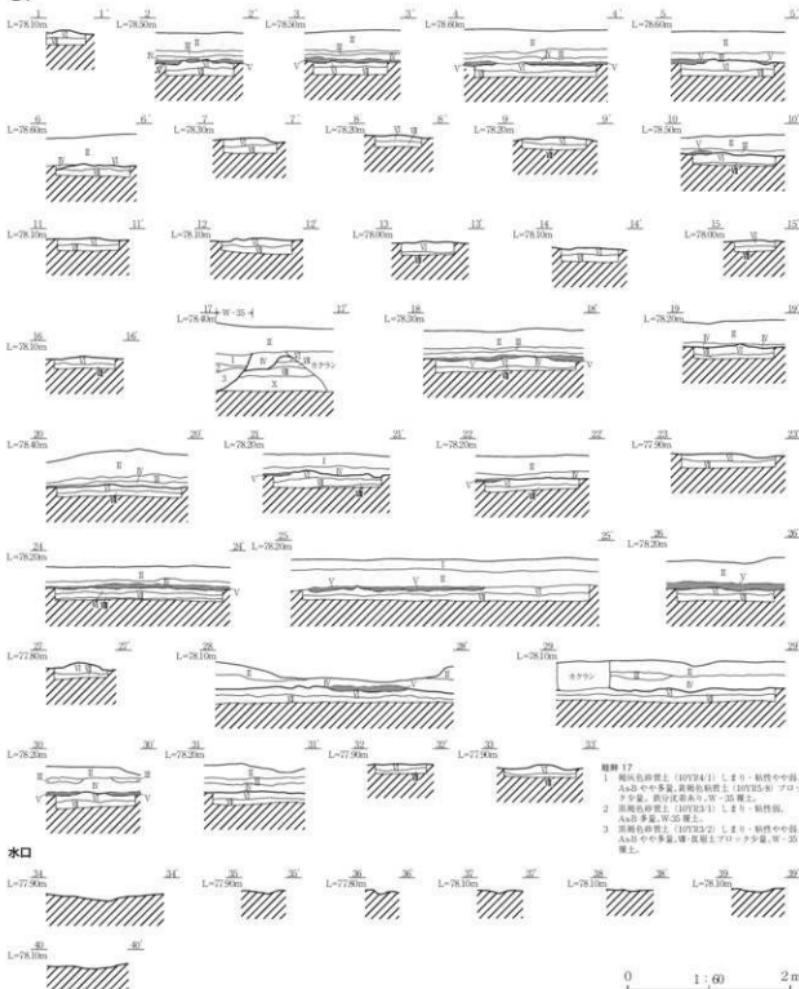
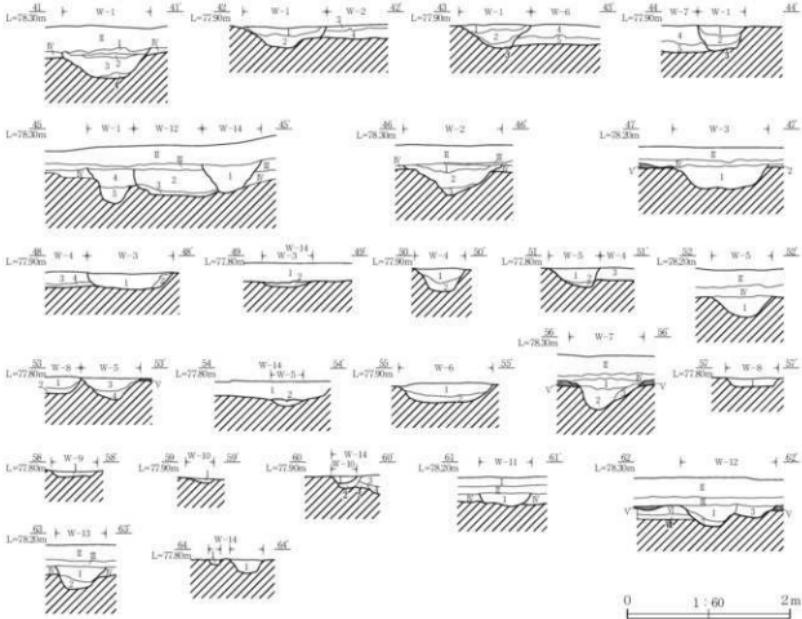


Fig. 9 畦畔断面・水口断面 1 ~ 40

滿 41 ~ 64 (W-1 ~ 14 号滿)



W-3 可調 41

1. 黄褐色細胞質土 (10YR3/2) しまり 周囲葉や根  
2. 黑褐色細胞質土 (10YR3/2) しまり 周囲葉や根、細胞質土 (10YR4/6) ブロック少量  
3. 黑褐色細胞質土 (10YR3/2) しまり 周囲葉や根  
4. 黑褐色細胞質土 (10YR3/2) しまり 周囲葉や根、細胞質土、Ae-Bg 細胞壁土質や多量  
W- 1. 黄褐色細胞質土  
2. 黑褐色細胞質土 (10YR3/2) しまり 周囲葉や根、細胞質土、Ae-Bg 細胞壁土質、W-1 壁土  
3. 黑褐色細胞質土 (10YR3/2) しまり 周囲葉や根、細胞質土、Ae-Bg 細胞壁土質や多量、W-1 壁土  
4. 黑褐色細胞質土 (10YR3/2) しまり 周囲葉や根、細胞質土、Ae-Bg 細胞壁土質や多量、W-1 壁土

五

- W-1・6 順位 43  
 1 黄褐色砂質土 [10VR3(2)] しまり・粘性や粗粒。As-B や多量。褐色砂質土 [10VR4(4)] ブロッケ少量。W-1 地上。  
 2 黄褐色砂質土 [10VR3(2)] しまりや粗・粘性層。As-B や多量。褐色土 [10VR3(2)] しまり・粘性層。As-B や多量。Xe 層上ブロック少量。W-1 地上。  
 3 黄褐色砂質土 [10VR3(2)] しまり・粘性層。As-B や多量。Xe 層上ブロック少量。W-1 地上。

卷一 亂世色彩質實上

- 褐色鉱物質上 (HFR3/2) しまり・粘性やや弱。As-B やや多量。褐色鉱物質上 (HFR4-6) ブリタニウム、銅、Mn 多量。

（三）兩種公報與十二

- 3 水溶性鉄質土 (10YR3/2) しまり・粘性弱。AaB 多量。KA 層上プロック少量、W-1 層土。  
4 水溶性鉄質土 (10YR3/2) しまり・粘性や弱。AaB 多量。褐色鉄質土 (10YR4/6) は褐色土プロック少量、W-7 層土。  
5 水溶性鉄質土 (10YR3/1) しまり・粘性や弱。AaB 多量。KA 層上プロック少量、W-7 層土。  
W-1・12・14号鉢 45

### 三、肌側色彩與上

- 2 黒褐色斑目 (BYTR3-2) しまりやや強。粘質やや弱、Aa-B やや多量、苔類上プロック少量。共分葉着生、W=12 叢上。

3 黑褐色斑目 (BYTR3-2) しまりやや強。粘性やや弱、Aa-B 多量、苔類上プロック少量。W=12 叢上。

4 黑褐色斑目 (BYTR3-2) しまりやや弱。粘性弱、Aa-B やや多量、苔類上プロック少量、W=1 叢上。

5. 胸側乳頭腫上

- W-2号地質

  - 1 黒褐色の土質 (10YR5/2) しまりや細粒・粘性やや弱。Aa+B。黒褐色粘土質 (10YR5/6) ブロックや多量。
  - 2 黒褐色の土質 (10YR3/2) しまり・粘性やや弱。Aa+B やセ多量。黒褐色粘土質 (10YR5/6) ブロックや多量。
  - 3 黑褐色の土質 (10YR5/2) しまり・粘性や弱。Aa+B やセ多量。黒褐色粘土質 (10YR5/6) ブロックや多量。

W-347

- 1 黒褐色の管状 ( $\text{IOYH3-2}$ ) しまわり粘性や弱。AabB やや多量。雄蕊上部ロツカ少量。W-3種上。

2 黒褐色の管状 ( $\text{IOYH4-1}$ ) しまわり粘性。粘性や中弱。花被上を主体とする。AabB 多量。

W-3-4号種 48

1 黒褐色の管状 ( $\text{IOYH3-2}$ ) しまわり粘性や弱。AabB やや多量。雄蕊上部ロツカ少量。W-3種上。

2 黒褐色管状 ( $\text{IOYH3-2}$ ) しまわり粘性や弱。AabB-選出しロツカやや多量。W-3種上。

3. 地圖色彩設計上

- 4 黒毛細胞質 (10YGC/1) しまり・粘性やや弱。AaB やや多量、道筋上アラバタ少量。W=4 頭土。W=3 → 14 頭土  
 5 黒毛細胞質 (10YNG/2) しまり・粘性やや弱。Aa-B 多量。其分沈者あり。W=14 頭土。  
 2 黒毛細胞質 (10YRS/2) しまり・粘性やや弱。AaB やや多量、道筋上アラバタ少量。W=3 頭土。

W-4 明康 50

- |     |           |         |  |
|-----|-----------|---------|--|
| 1   | 細胞壁蛋白質    | (HYD2)2 | しまるやくや前、軽性や。Aa+Bb 多量、Bb+ppk 少量。        |
| 2   | 細胞壁蛋白質    | (HYD2)1 | しまるやくや前、Aa+Bb 多量、Bb+ppk リアリテ。          |
| W-4 | 5-4 増殖素   | (HYD2)2 | しまるやくや前、Aa+Bb 多量、ppk 少量、W-5 増殖。        |
| 1   | 細胞壁蛋白質    | (HYD2)2 | しまるやくや前、Aa+Bb 多量、ppk 少量、W-5 増殖。        |
| 2   | 細胞壁蛋白質    | (HYD2)2 | しまるやくや前、Aa+Bb 多量、ppk 少量、W-5 増殖。        |
| 3   | 細胞壁蛋白質    | (HYD2)3 | しまるやくや前、軽性や。Aa+Bb 多量、Bb+ppk 少量、W-4 増殖。 |
| W-5 | 5-5 増殖素   | (HYD2)2 | しまるやくや前、Aa+Bb 多量、Bb+ppk 少量。            |
| W-5 | 8-8 増殖素   | (HYD2)4 | しまるやくや前、軽性や。Aa+Bb 少量、Bb+ppk 多量、W-8 増殖。 |
| 2   | 細胞壁蛋白質    | (HYD2)2 | しまるやくや前、軽性や。Aa+Bb 少量、Bb+ppk 多量、W-8 増殖。 |
| 3   | 細胞壁蛋白質    | (HYD2)2 | しまるやくや前、軽性や。Aa+Bb 少量、Bb+ppk 多量、W-8 増殖。 |
| 4   | 細胞壁蛋白質    | (HYD2)2 | しまるやくや前、軽性や。Aa+Bb 多量、Bb+ppk 少量、W-8 増殖。 |
| W-5 | 14-14 増殖素 | (HYD2)2 | しまるやくや前、Aa+Bb 多量、Bb+ppk 少量、W-5 増殖。     |

一  
二

- W-5 面上  
W-6 号嘴 55  
■ 固相色譜上 (10YR3/2) しまり、粘性や中弱。AbII 中や多量、Kg層土プロテク少量。  
固相色譜上 (10YR3/2) しまり、粘性や中弱。AbII 中や多量、Kg層土プロテク少量。  
Kg層土プロテク少量。

W-7 電子版

- W-7 茶褐色砂質土 (10YR5/2) しまり：粘性や少頭。Aa-Bb 多量、官能層上ブロッカ少量。  
 2 茶褐色砂質土 (10YR5/2) しまり：粘性や少頭。Aa-Bb 多量、官能層上ブロッカ少量。  
 3 茶褐色粘質土 (10YR5/2) しまり：粘性や少頭。官能層土王。

W-8 黄褐色 57

1 黄褐色粘質土 (10YR4/2) しまりや少頭。粘性頭。Aa-Bb 少量。鉄分注有あり。

W-9号簿 58

- I 黄褐色細胞質上 (10YR4/2) しまりや強、軸性面、AaBb 少量。微分分着あり。  
W-10 初夏 59  
I 黄褐色細胞質上 (10YR4/2) しまりや強、軸性面、AaBb 少量。微分分着あり。  
W-10 - 14 号 莖 50  
I 黄褐色細胞質上 (10YR4/2) しまりや強、軸性面、AaBb 少量。微分分着あり。W-10 莖上。  
I 黄褐色細胞質上 (10YR4/2) しまりや強、軸性面、AaBb 少量。微分分着あり。W-10 莖上。  
I 黄褐色細胞質上 (10YR4/2) しまりや強、軸性面、AaBb 少量。微分分着あり。W-10 莖上。

黑格尔的  
第三阶段

- W-14 壤土。  
 3 雜色沙質土 (10YR4/1) L. 2 まで中層。粘性やや弱、As-B やや多量、W-14 壤土。  
 4 雜色沙質土 (10YR3/2) しまり・粘性やや弱、As-B やや多量、表面にプロック少量。鉄分沈着あり。  
 W-14 壤土。  
 5 雜色沙質土 (10YH3/2) L. 2 まで。粘性やや弱、As-B 少量。鉄分沈着あり、W-14 壤土。  
 W-11 則見 61.

卷之三

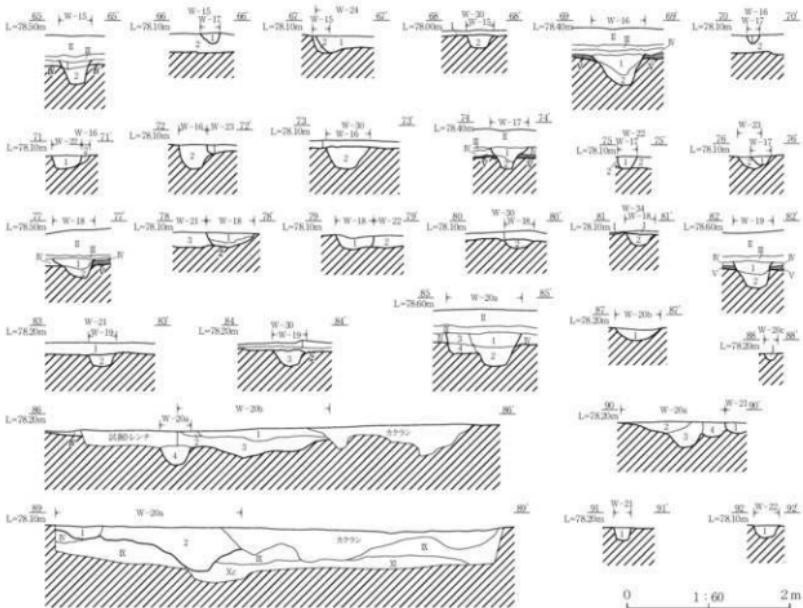
- |         |   |
|---------|---|
| W-12 頭部 | 62  |
| 1 黒褐色艶質 | (10YIG-2) L. よりやや強。粘性や弱。Aa-B やや多量、瓦礫土プロック少量。Bc 分泌毛有り。 |
| 2 黒褐色艶質 | (10YIG-2) L. よりやや強。粘性や弱。Aa-B 多量、瓦礫土プロック少量。            |
| 3 黒褐色艶質 | (10YIG-2) L. よりやや強。粘性や弱。Aa-B 多量。Bc 分泌毛有り。             |
| 4       | 50-55   |

W-13 可調式

- 1 黒褐色砂質土 (10YR3/2) しまり、粘性や弱め。Ab+B や多量。鉄分沈着あり。  
 2 黒褐色砂質土 (10YR3/2) しまり、粘性や弱め。Ab+B や多量。日・日暮土ブロック少々。  
**W-14 号測 64**  
 1 黒褐色砂質土 (10YR3/2) しまり、粘性や弱め。Ab+B や多量。鉄分沈着あり。

Fig.10 漢斯面 A1 > 64 (W = 1 > 14 号漢)

### 溝65～92 (W-15～24、30、34号溝)



#### W-15号溝

- 1 黄褐色粘土質土 (HOY3-2) しまり・粘性やや弱。AbII やや多量。褐色鉄質土 (HOY3-6) ブロック少量。灰白色砂岩。
- 2 黄褐色粘土質土 (HOY3-2) しまり・粘性やや弱。AbII やや多量。
- 1 粘灰鉄質土 (HOY3-1) しまり・粘性やや弱。AbII 少量。黄褐色粘土 (W-17 層上)。
- 2 黄褐色粘土質土 (HOY3-2) しまり・粘性やや弱。AbII やや多量。W-15 層上。

#### W-15～24号溝

- 1 黄褐色粘土質土 (HOY3-2) しまり・粘性やや弱。AbII 多量。黃褐色粘土質土 (HOY3-6) ブロック少量。灰白色砂岩 (W-24 層上)。
- 2 黄褐色粘土質土 (HOY3-2) しまり・粘性やや弱。AbII やや多量。W-15 層上。

#### W-15～30号溝

- 1 黄褐色粘土質土 (HOY3-2) しまり・粘性やや弱。AbII 少量。W-20 層上。
- 2 黄褐色粘土質土 (HOY3-2) しまり・粘性やや弱。AbII やや多量。W-16 層上。

#### W-16号溝

- 1 黄褐色粘土質土 (HOY3-2) しまり・粘性やや弱。AbII 多量。黃褐色粘土質土 (W-25 層) ブロック少量。
- 2 黄褐色粘土質土 (HOY3-2) しまり・粘性やや弱。AbII やや多量。W-16 層上。

#### W-16～17号溝

- 1 黄褐色粘土質土 (HOY3-1) しまり・粘性やや弱。AbII 少量。黄泥化砂岩 (W-17 層上)。
- 2 黄褐色粘土質土 (HOY3-2) しまり・粘性やや弱。AbII やや多量。W-16 層上。
- 2 黄褐色粘土質土 (HOY3-2) しまり・粘性やや弱。AbII やや多量。W-16 層上。

#### W-16～22号溝

- 1 黄褐色粘土質土 (HOY3-2) しまり・粘性やや弱。AbII 多量。黃褐色粘土質土 (HOY3-6) ブロック少量。W-20 層上。
- 2 黄褐色粘土質土 (HOY3-2) しまり・粘性やや弱。AbII やや多量。黃褐色粘土質土 (HOY3-6) ブロック少量。W-20 層上。

#### W-16～23号溝

- 1 黄褐色粘土質土 (HOY3-1) しまり・粘性やや弱。AbII 少量。黄泥化砂岩 (W-17 層上)。
- 2 黄褐色粘土質土 (HOY3-2) しまり・粘性やや弱。AbII やや多量。W-16 層上。

#### W-16～23号溝

- 1 黄褐色粘土質土 (HOY3-1) しまり・粘性やや弱。AbII 少量。黄泥化砂岩 (W-17 層上)。
- 2 黄褐色粘土質土 (HOY3-2) しまり・粘性やや弱。AbII やや多量。W-16 層上。

#### W-17号溝

- 1 黄褐色粘土質土 (HOY3-1) しまり・粘性やや弱。AbII 少量。黄泥化砂岩 (W-17 層上)。
- 2 黄褐色粘土質土 (HOY3-2) しまり・粘性やや弱。AbII やや多量。W-17 層上。

#### W-17～22号溝

- 1 黄褐色粘土質土 (HOY3-1) しまり・粘性やや弱。AbII 少量。黄泥化砂岩 (W-17 層上)。
- 2 黄褐色粘土質土 (HOY3-2) しまり・粘性やや弱。AbII やや多量。黃褐色粘土質土 (HOY3-6) ブロック少量。W-17 層上。

#### W-18号溝

- 1 黄褐色粘土質土 (HOY3-2) しまり・粘性やや弱。AbII やや多量。灰白色砂岩。
- 2 黄褐色粘土質土 (HOY3-2) しまり・粘性やや弱。AbII やや多量。W-18 層上。

#### W-18～21号溝

- 1 黄褐色粘土質土 (HOY3-2) しまり・粘性やや弱。AbII やや多量。W-18 層上。

#### W-19号溝

- 1 黄褐色粘土質土 (HOY3-2) しまり・粘性やや弱。AbII やや多量。W-19 層上。

#### W-20号溝

- 1 黄褐色粘土質土 (HOY3-2) しまり・粘性やや弱。AbII やや多量。W-20 層上。
- 2 黄褐色粘土質土 (HOY3-2) しまり・粘性やや弱。AbII やや多量。W-20 層上。

#### W-21号溝

- 1 黄褐色粘土質土 (HOY3-2) しまり・粘性やや弱。AbII 少量。W-21 層上。
- 2 黄褐色粘土質土 (HOY3-2) しまり・粘性やや弱。AbII やや多量。W-21 層上。

#### W-22号溝

- 1 黄褐色粘土質土 (HOY3-2) しまり・粘性やや弱。AbII 少量。W-22 層上。
- 2 黄褐色粘土質土 (HOY3-2) しまり・粘性やや弱。AbII やや多量。W-22 層上。

#### W-23号溝

- 1 黄褐色粘土質土 (HOY3-2) しまり・粘性やや弱。AbII 少量。W-23 層上。
- 2 黄褐色粘土質土 (HOY3-2) しまり・粘性やや弱。AbII やや多量。W-23 層上。

#### W-24号溝

- 1 黄褐色粘土質土 (HOY3-2) しまり・粘性やや弱。AbII 少量。W-24 層上。
- 2 黄褐色粘土質土 (HOY3-2) しまり・粘性やや弱。AbII やや多量。W-24 層上。

#### W-25号溝

- 1 黄褐色粘土質土 (HOY3-2) しまり・粘性やや弱。AbII 少量。W-25 層上。
- 2 黄褐色粘土質土 (HOY3-2) しまり・粘性やや弱。AbII やや多量。W-25 層上。

#### W-26号溝

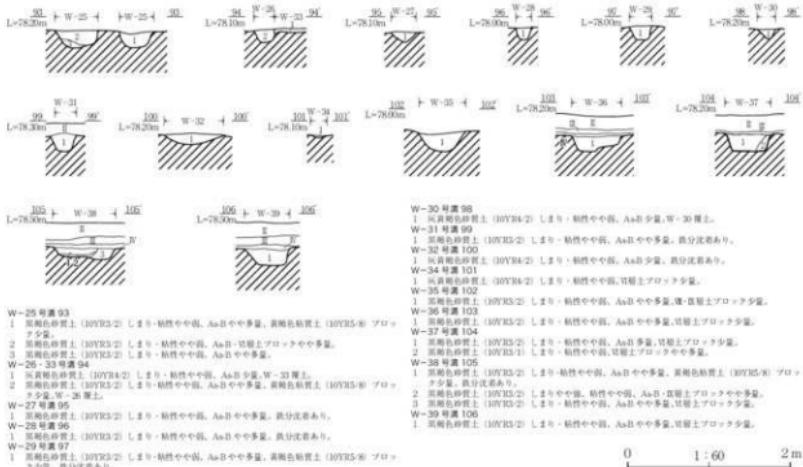
- 1 黄褐色粘土質土 (HOY3-2) しまり・粘性やや弱。AbII 少量。W-26 層上。
- 2 黄褐色粘土質土 (HOY3-2) しまり・粘性やや弱。AbII やや多量。W-26 層上。

#### W-27号溝

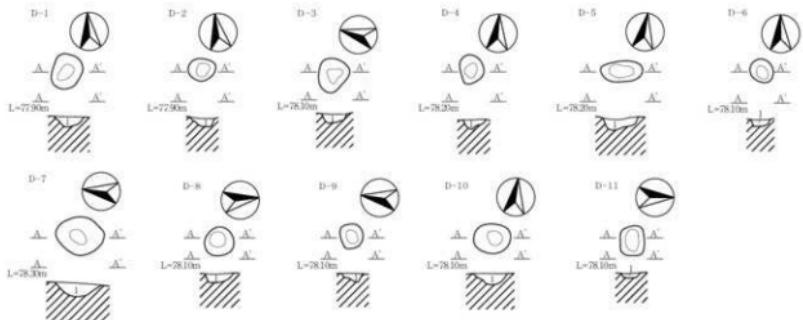
- 1 黄褐色粘土質土 (HOY3-2) しまり・粘性やや弱。AbII 少量。W-27 層上。
- 2 黄褐色粘土質土 (HOY3-2) しまり・粘性やや弱。AbII やや多量。W-27 層上。

Fig11 溝断面 65～92 (W-15～24、30、34号溝)

93 ~ 106



士紳



D-1 黒毛土質  
黒色細粒土質 (HYTR2/3) しまりやや弱、粘性固、  
As-B-セリウムプロックやや多量。鉄分沈着有。

D-2 黒土質  
黒色細粒土質 (HYTR3/4) しまりやや弱、粘性固、  
As-B-セリウムプロックやや多量。鉄分沈着有。

D-3 黒土質  
黒色細粒土質 (HYTR3/2) しまりやや弱、粘性やや弱、  
As-Bやや多量、セリウムプロック少。

D-4 黒土質  
黒色細粒土質 (HYTR2/2) しまりやや強、粘性やや弱、  
As-Bやや多量。褐色細粒土 (10TR4/6)  
びざくら全段、透水性良好。

D-5・6・7・10号土質 A  
直面土質上部 [10YR5/2] しまり・粘性や中弱, As-Bやや多量, 鉛沈澱有り。  
D-7号土質 A  
直面土質上部 [10YR5/2] しまり・粘性や中弱, As-B・鉛層上プロック少量。  
D-8号土質 A  
直面土質上部 [10YR5/2] しまり・粘性や中弱, As-Bやや多量, 鉛層上プロック少量。鉛沈澱有り。  
D-11号土質 A  
直面土質上部 [10YR5/2] しまり・粘性や中弱, As-Bやや多量, 鉛層上プロック少量。鉛沈澱有り。

レン手

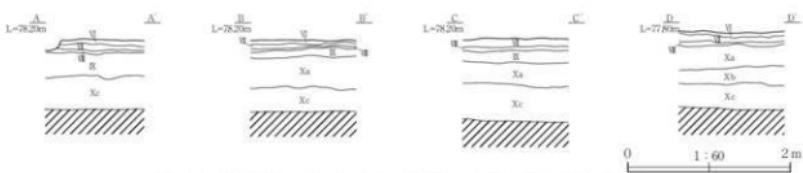


Fig.12 溝断面 63～106 (W-25～39 号溝)、土坑、トレンチ断面 A～D

## VI 発掘調査の成果と課題

### 1 調査の成果

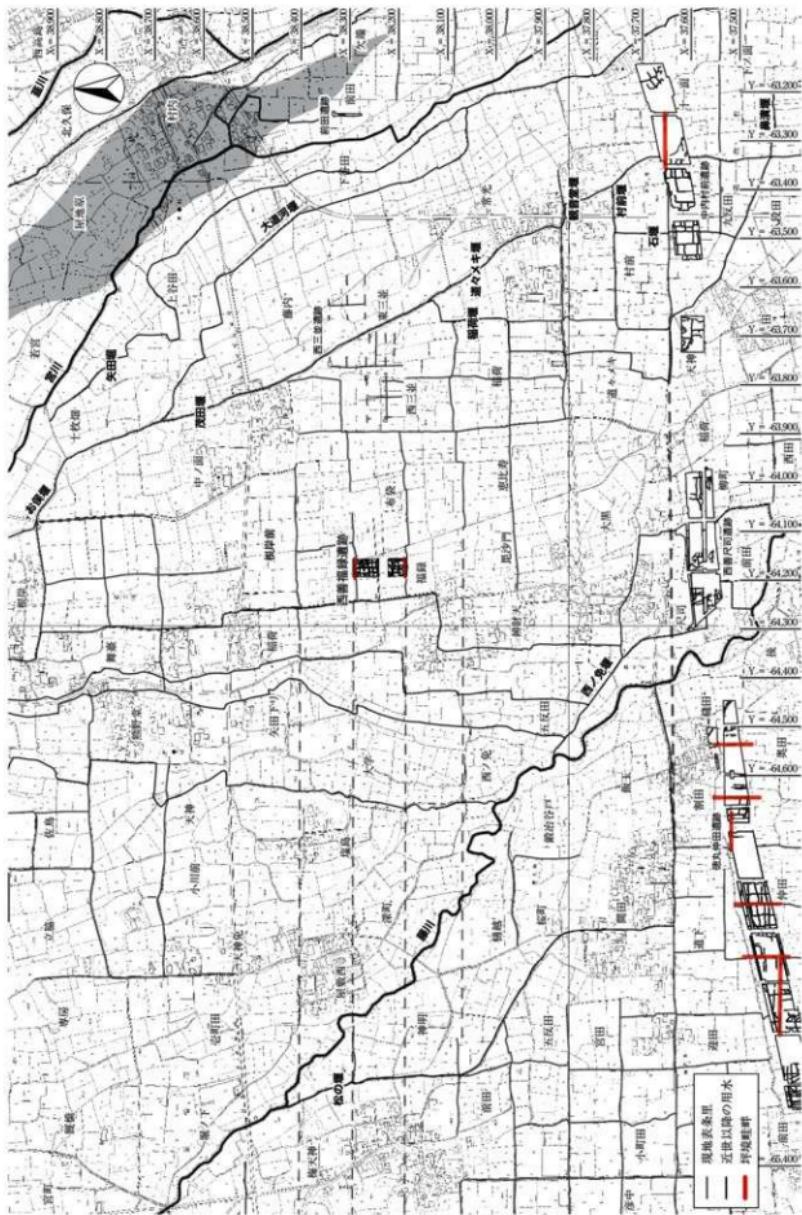
今回の調査では、平安時代末期と中近世以降の遺構が確認された。1108年当時の、本遺跡周辺は水田として開発されていたが、浅間山の噴火によってAs-Bが厚く堆積した。本遺跡南方の中内村前遺跡ではAs-Bを働き込んだ掘削痕跡が検出されていることから、軽石降下後中世のそれほど遅くない時期に水田の復旧が行われたと考えられているが、今回の調査ではこれと同様な痕跡は確認されなかった。検出された東西・南北方向の区画溝は主にAs-B混土堆積後に掘削されているため、中内村前遺跡よりも一段階後に復旧されたと考えられる。平安時代以前については、遺物としては石鎚を表探しているが、トレントを設定して断面を観察したところ、遺構は確認できなかった。

### 2 As-B下水田

Fig.13は昭和43年の都市計画図にAs-B下水田が確認された周辺遺跡の全体図を重ね、明治時代の小字と近世以降の用水と現地表条里を示した図である。<sup>(12)</sup>周辺遺跡で確認された大畦畔は朱線で示している。藤川以西の宮地・房丸・徳丸町では、五反田・宮田・迎田から西側は敷町の現地表条里が確認できる。この現地表条里は西田遺跡で確認された坪境交点と齋藤がない。北方の梅天神では現地表条里が確認できないが、これは東宮地環濠遺構群によって、地割の変更を受けたためである。このように現地表条里は、長期に及ぶ様々な土地利用が累積した結果であり、埋没した一定時期を示す水田遺構と同列に扱うことはできないが、この事を充分留意した上で、As-B下水田の調査事例と合わせて条里型地割の坪交点について検討したい。

藤川沿いの堀ノ下・屋敷西・深町・西ノ免・五反田・神明・橋越・鐵治谷戸・飯玉・綾田等では現地表条里は少ない。河川改修以前の藤川は図のように蛇行が顕著で、降水により氾濫することもあった。<sup>(13)</sup>また、発掘調査では藤川の旧流路が確認されている。<sup>(14)</sup>藤川沿いの地割は、藤川の氾濫や流路変更の影響下にあった可能性が考えられる。次に藤川以東の現地表条里については、以西と比較して一町四方の現地表条里は少なく、特に藤川と本遺跡の間は現地表条里が明確ではない。遺跡西側の熊野堂・矢田下リ・稻荷・辨財天は、16世紀に形成された西善環濠遺構群・旧西善環濠遺構群によって地割が変更されている。ただ、遺跡西側の手前から2本目の用水路は、破線で示した現地表条里に沿ってクランクするため、部分的に現地表条里が残存しているといえる。また、中内村の稻荷・村前においても用水路として部分的に現地表条里が残存している。

本遺跡周辺では、徳丸仲田遺跡と中内村前遺跡で大畦畔が確認されている。徳丸仲田遺跡の南北大畦畔は、4条のうち西側から数えた2条は現地表条里と概ね一致している。東端の1条は大畦畔ではなくAs-B一次堆積層を覆土とする溝（古代II期水田H区1号溝）で、これが坪境の可能性がある。徳丸仲田遺跡北側の間田は、道下・割田との字境で、用水路として東西方向の現地表条里が部分的に残存するものの、宮田・小町田・彦中のように敷町の現地表条里は確認できない。これは間田に房丸東環濠遺構群が形成されたため、地割が変更を受けたといえる。次に本遺跡については、周辺の現地表条里を引くと東西の坪境が調査区の南端と北端に想定される。今回、畦畔の幅の広さや高まりの大小、截ち割りの断面観察からは明確に大畦畔と判断できるものは無かった。しかし、As-B下水田を掘り込む東西・南北方向の区画溝が条里型地割を踏襲していると仮定すると、この区画溝の区画状況から大畦畔の位置を推定することができる。まず南端の大畦畔について考えたい。南側調査区の区画溝（W-1～8、12・13）はW-5より南側には溝が検出されていない。したがって、W-5が区画の端であるから、W-5に重複する東西畦畔は坪境畦畔の可能性がある。次に北端の大畦畔だが、L字に走行するW-20aを境として南北溝の位置や幅の広さが異なるため、W-20aは大きな区画の境界といえる。したがって、W-20a北側の東西畦畔は坪境の可能性がある。以上のように、今述べた2条の東西畦畔は間隔が約105mとやや



狭いものの、畦畔である可能性が指摘できる。

本遺跡の坪内区画は、W - 5 以前は畦畔の間隔が全体的に狭い。途中で畦畔の途切れる部分も見受けられ、新田2時期の畦畔が検出されたと考えられる。南側調査区中央 (Y46 ~ 49, X56) の南北畦畔も旧畦畔と考えられ、高まりは低く、痕跡程度に確認された。W - 5 以北は多数の溝と重複しているため全容の把握が難しい。南側調査区では斜行する東西畦畔が2条確認でき、北西から南東へ傾斜する地形に沿って作られた畦畔と考えられる。北側調査区は、南側調査区と比較してより細かく区画している。畦畔は概ね正方位を志向しているが、部分的に蛇行・斜向する。W - 21 ~ 24 に沿って南北畦畔があるが、これを南から追っていくとW - 16 と重複する部分で蛇行して西に少し位置が移動するが、W - 19 と重複する東西畦畔との交点部分でランクして東に畦畔の位置が移動する。この畦畔を見ると、蛇行して西に位置が移動した畦畔は、条里型地割施工当初は蛇行のない直線的な畦畔で、次第にその時の配水状況や地形に応じて畦畔の位置がずれていったものと推測される。

### 3 中世以降の区画溝

南部拠点地区遺跡群 No.10 では中世の区画溝が検出されている。本遺跡と同じく方形に区画する溝群で、As-B 素土で埋没しており、条里型地割ではなく地形に応じた畠の区画と結論されている。本遺跡の東西・南北方向の区画溝群 (W - 1 ~ 8, 12 ~ 13, 15 ~ 16, 18 ~ 29, 31, 35 ~ 39) は、特に東西溝の位置は畦畔の存在した場所を意識していたように見える。東西溝はほぼ一定の方向に走行し、溝と溝の間隔もおよそ一定である。区画する面積は、特に南側調査区の南北溝は東西溝との交点で交差せずにランク状を呈しているため一定ではない。北側調査区の W - 20, 35 はやや幅広で、この2条の間の溝 (W - 21 ~ 24, 26 ~ 29) は幅がやや狭い。また、この2条間とその外側の南北溝とは掘られている位置が異なるため、W - 20 と 35 は一つの大きな区画を画していたと考えられる。W - 20 は用水路の可能性があり、a → b の順に掘りなおされ、昭和の圃場整備以前まで区画として残存している。W - 35 についても、用水路であるかは判断できないが<sup>4</sup>、昭和の圃場整備以前まで区画として残存している。<sup>5</sup>

註

- (1) 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002 「中内村前道路 (1)」
- (2) 小字・用水・現地貢米については、群馬県史編さん委員会 1991, 萩原進 1981, 前橋市南部第二土地改良史編集委員会 1994, 群馬県立文書館所蔵の明治5・6年上野郡波止内善賀寺村・矢田村、两家村の壬申地券地引絵図、昭和45年以降の耕地図「上川洞門全国」・「下川洞門全国」・「上陽村全国」を参考にした。
- (3) 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002 「西田道跡・村前道路」
- (4) 前南地域研究会 1994
- (5) 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2003 「徳丸仲田道跡 (2)」、玉村町教育委員会 1992, 前橋市教育委員会 2015
- (6) 前橋市教育委員会 2014
- (7) W - 20, 35 を構成する溝は調査では荒乱扱いとした現代の溝で、明治6年の矢田村の壬申地券地引絵図にも確認できる。この溝は小字境界で、区画内は小字「高道」となっている。

### 参考文献

#### 論文等

新井一郎 2001 「群馬県における平安時代の水田開発について」『研究紀要』19 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

広桃用水史編さん委員会 1994 「広桃用水史 (通史編)」

萩原進 1981 「上野郡都村辻」4 群馬郡 (1) 群馬県埋蔵文化財調査会

萩原進 1986 「上野郡都村辻」14 佐波郡 群馬県埋蔵文化財調査会

前南地域研究会 1991 「前南の換地」

前橋市南部第二土地改良史編集委員会 1994 「前橋南部土地改良史」

#### 発掘調査報告書等

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2001 「西善尺司道跡」

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002 「西田道跡・村前道路」

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002 「中内村前道路 (1)」

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2003 「中内村前道路 (2)」

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2005 「中内村前道路 (3)」

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2003 「徳丸仲田道跡 (2)」

玉村町教育委員会 1992 「仲入村玉道跡」

前橋市教育委員会 2014 「群馬県各地(区)道跡No.10」

前橋市教育委員会 2015 「高曾・後岡水田道跡」

前橋市教育委員会 2017 「山王若宮Y道跡」

前橋市埋蔵文化財発掘調査会 1988 「西三並道跡」

前橋市埋蔵文化財発掘調査会 1991 「前田道跡」

前橋市埋蔵文化財発掘調査会 1998 「横手山田Ⅱ道跡・徳丸仲田Ⅱ道跡・西善尺司Ⅱ道跡・下増田横茂Ⅱ道跡」

前橋市埋蔵文化財発掘調査会 1999 「徳丸高曾Ⅱ道跡・徳丸仲田Ⅱ道跡・西善尺司Ⅱ道跡・下増田越路Ⅱ道跡」

前橋市埋蔵文化財発掘調査会 2001 「横手山田Ⅱ道跡・徳丸仲田Ⅱ道跡」



調査区 全景（上が北）



調査区 遠景（右奥に榛名山、左奥に浅間山 南東から）



北側調査区 As-B下水田 全景（南西から）



南側調査区 As-B 下水田 全景（北西から）



畦畔断面 6～6' (南から)



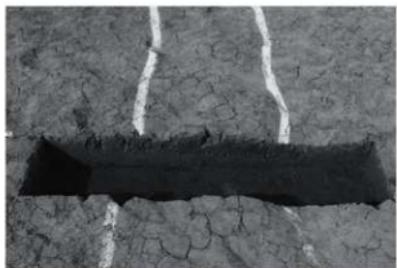
畦畔断面 7～7' (東から)



畦畔断面 17～17' (東から)



畦畔断面 21～21' (東から)



畦畔断面23~23' (南から)



本田面18 全景 (南から)



水口断面35~35' 全景 (東から)



水口断面40~40' 全景 (東から)



W-20a・b号溝 全景 (南東から)



W-1号溝 全景（東から）



W-2号溝 全景（北から）



W-3号溝 全景（東から）



W-5号溝 全景（東から）



W-6～8号溝 全景（北から）



W-12・13号溝 全景（北から）



W-15号溝 全景（東から）



W-16号溝 全景（東から）



W-18号溝 全景（東から）



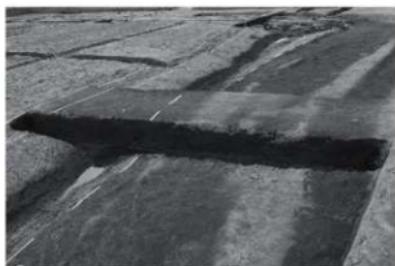
W-19号溝 全景（東から）



W-20a号溝断面85~85'（東から）



W-20a・b号溝断面86~86'（北東から）



W-20a号溝断面89~89'（南から）



W-35号溝 全景（東から）



D-7号土坑 全景（西から）



D-11号土坑 全景（東から）

## 報告書抄録

カタカナ	ニシゼンフクロクイセキ
書名	西善福錄遺跡
副書名	西善中内産業用地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	-
シリーズ名	-
シリーズ番号	-
編著者名	茂木佑輔
編集機関	技研コンサル株式会社
編集機関所在地	〒371-0031 群馬県前橋市下小出町1丁目15番地3
発行機関	前橋市教育委員会
発行機関所在地	〒371-0853 群馬県前橋市総社町3丁目11番地4
発行年月日	2021年8月31日

フリガナ	フリガナ	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		所 在 地	市町村	遺跡番号	北 緯			
ニシゼンフクロクイセキ 西善福錄遺跡	前橋市西善町779-1、 779-2、780、946-1、 946-3、946-4、946-5、 947-1、947-2	10201	3G75	36° 34' 24"	139° 1' 18"	20210430 ~ 20210607	3,300m <sup>2</sup>	西善中内産業用地造成
所收遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
ニシゼンフクロクイセキ 西善福錄遺跡	生産 その他	平安時代 中・近世	As-B下水田 溝 土坑		40条 11基	須恵器 土師器 陶磁器	1108年降下のAs-B一次堆積 層直下の水田。 中近世の区画溝。	

### 西 善 福 錄 遺 跡

西善中内産業用地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2021年8月23日 印刷

2021年8月31日 発行

発行 前橋市教育委員会事務局文化財保護課

〒371-0853 群馬県前橋市総社町3丁目11番地4

TEL 027-280-6511

編集 技研コンサル株式会社

印刷 朝日印刷工業株式会社









